

國  
 會  
 講  
 法  
 會  
 議  
 筆  
 記  
 第  
 一  
 卷

寫  
 本  
 筆  
 記  
 第  
 五  
 號  
 第  
 六  
 架  
 第  
 八  
 號  
 第  
 一  
 卷  
 第  
 一  
 冊  
 第  
 一  
 冊  
 第  
 一  
 冊

第	第	第
八	六	五
號	架	號

省  
 法  
 司  
 第  
 八  
 號  
 寄  
 贈  
 圖  
 書  
 文  
 庫









第壹号

才五

四

訴訟法會議筆記

七年四月十日

司法部



B500  
B 3  
1 a

訴訟法會議筆記 七年四月十日

第二章 下等裁判所ニ呼出ス事

第五十九條 人權ノ支ニ付テハ被告人其住所ノ裁判所ニ呼出サルベシ若シ其住所ノ知レサル時ハ寄居スル地ノ裁判所ニ呼出サルベシ  
人權トハ專ラ身分ニ関シタルヲ去テニアラズ總テノ貸借授與等ノ義務人ニ対スルモノナリ物ニ対スルモノニアラズソノ目的ノ人ニアルト物ニアルトノ區別シタル名ナリ  
原告人ノ住所ニ被告人ヲ呼出ストキハ被告人ニ於テ多少ノ難儀ヲ蒙リ且ツ種々ノ弊害ヲ生シソノ支實ノ取調ニモ不都合多シ故ニ被告人ノ住所ニ呼出ストナリ

司法省

タトヘハ東京人ニテ長崎ノ人へ金ヲ貸シタリト訴フモノアラソノ真偽知ルベカラザルニ被告人ヲ東京へ呼出スニ万一詐偽ナルトキハ被告人ニ多少ノ費ヲ掛ルナリ依テ原告人ノ方ヨリ被告人ノ地へ往クコトニナレハ原告人ニ於テ右等ノ詐偽ヲ去フヲ得ス被告人モ無益ノ害ヲ蒙ルコトナシ故ニ被告人ノ所ニ往クコトヲ原則ト極メタリ  
住所ノ知レガルトアルハ住所ノ定マラガレ時トスル方然リ

原被双方ノ住所隔絶スルカ或ハ故障アリテ原告人自カラ行クヲ得サルトキハ被告人住所ノ代唇人ニ申送り之レニ托シテ訴訟ヲナ



スソノ原告人ハ已レノ住所ニ居テ濟ムナ  
リ

若シ被告人数人アルトキハ原告人ノ擇ミニ從  
ヒソノ中一人ノ住所ノ裁判所ニ呼出サルベシ  
被告数人アルトキ數裁判所ニテ裁判セハ各  
裁判各異アリテ債主ノ際ニ不都合ヲ生ス故  
ニ原告人ノ撰ミニテ一ノ被告人ノ所ニ於テ  
ス

物權ノ支ニ付テハソノ物件所在ノ地ノ裁判所  
ニ呼出サル可シ  
物權トハ動産不動産ノ物件ニ對シテ云フコ  
トナレドモ此ニハ不動産ノミヲ以テ言ハヘ  
リ

司法省

タトヘハ土地ヲ已レノ有トスルノ詐或ハソ  
ノ入額ヲ已レニ收納セントスル詐等之レナ  
リ又土地侵奪ノコトニ付テソノ地ヲ取返ス  
詐ハ即チ物權ナリ

然レモタトヘハ失火ニテ土地ノ經界紛乱シ  
タル時ソノ經界ヲ定ムルニ隣地ノ申合セヲ  
要スルニソノ隣地ノモノ之レヲ承知セサル  
トキ之レヲ兼知セシムルノ訴ハ人權ニ屬  
ス

又甲長崎ニテ乙ニ千坪ノ地ヲ賣タリ乍去ソ  
ノ地ハ長崎ノ何ノ処ト定マラサルナリ右ヲ  
違約シテ渡サ、ルトキ之レヲ渡サシムヘキ  
訴ハ人權ナリ



近時佛蘭西ニ一例アリ巴里ノ人「アルゼリ」  
ニテ土地ヲ引渡スベキ契約ヲ為シタリ然レ  
モ其契約ニ引渡スベキ土地ヲ確定セズ只「ア  
ルゼリ」ノ山ノ手ニテ土地千坪ヲ渡スベシ  
トノコトナリシカ後ニソノ人分散トナリ終  
ニ其義務ヲ行フコト能ハス依テ被告人ノ住  
所ヘ訴ヘ裁判トナリタリ是亦土地ニ関スル  
コトナレドモ人權ニ屬スレハナリ  
動産ノ物件ニ付テハ何レノ処ニ呼出スベキ  
ヤ此条ニ記スベキニ之レヲ記セス之レ法律  
ノ未タ尽サ、ル所ナリ本條ノ下ニ動産ノ物  
件ハ被告人所在ノ裁判所ニ呼出スコトヲ増  
補スベシ

司法省

人權ト物權ト相混シタル契ニ付テハソノ物件  
所在ノ地ノ裁判所又ハ被告人住所ノ裁判所ニ  
呼出サルベシ

人權ト物權ト混シタルトハタトヘハ家屋賣  
渡ノ契約ヲ取極メタル上ハソノ家ヲ現ニ受  
取ラスト虽モ即日ヨリ買入タルモノ所有主  
ナリ然ルニ賣リ主引渡スベキ期日ニソノ家  
ヲ明ケ渡サ、ルトキノ訴ヘハ人權ナリ又ソ  
ノ家屋ヲ渡サスシテ自僦ニ使ヒタルニ付其  
家屋ノ所有ノ權ヲ訴フルハ物權ナリ  
右ノ二權ヲ混スルトキハ原告人ノ擇ミニ任  
カセ物件所在ノ地ニテモ又ハ被告人住所ニ  
テモ呼出シテ差支ナシトス



所有ノ權ハ約定昏取換ハシノ時甲ヨリ乙ニ  
移ルモノトス故ニ物ヲ受取ラストモ買入レ  
タル者其物ノ所有主ナリ然レモ其物ノ定マ  
ラサル者ハ約定ノミニテ物ノ所有主ナリト  
云ヲ得サルナリ



第二号

訴訟法會議筆記

七年四月十五日

司法部



四月十五日會議

○重テ人権物権ノコトヲ説ク

人権ト物権トヲ分ツハ裁判上都合ノ為メニ  
設ケタルモノナリ

總テ義務ニ関スルハ人権ナリソノ義務ハ契  
約ヨリ生スルモ法律上ヨリ生スルモ之レア  
リ

物権ハ總テ物ニ対シ此物ヲ己レノ物ト争フ  
等ヨリ生スルモノナリ其目的物ニ在ルユヘ  
物ノアル所ニ於テ裁判スルナリ

不動産ニ限り必スソノ現在ノ土地ニ於テ裁  
判ス動産ハ身ニ附属スルモノトス故ニ被告  
人ノ裁判所ニ於テス

司法省

人権物権ノ區別ヲナシ又其一ヶ所ノ裁判所  
ニ定ルコトニ付テハ緊要ノコトアリ左ノ如  
シ

原告人ノ多人数アルハ分派ノ場ニ至リ各  
ソノ望ヲ充ツルコト能ハサルモノナリタト  
ヘハ三百万兩ヲ借シタル者アリ百万兩ヲ借  
シタルモノアリ然ルニ數ヶ所ニテ之ヲ裁判  
スルハ一人ハ十ノ七八分ヲ取ルコト得又  
一人ハ十ノ二三分ヲ得ルコト能ハズ不公平ヲ  
生ス故ニ之ヲ一ヶ所ニテ裁判シ各ソノ義務  
ノ高ニ循ヒ分派ノ公平ヲ得ルヲ要スル所以  
ナリ

物ノ定マリタル約束ノ件タトヘハ何地ノ何



番何号ノ家ト確定セシ件ハ則チ物權ニ屬ス  
故ニ其類ハ裁判權ヲ以テ其物ヲ差押ヘ取揚  
ルヲ得ル

物ノ定マラサル約束ノ件ハ物ナキカ如シ故  
ニソノ違約ニ付損害ヲ生スルヲアレハ其償  
ヲ出サシム此類ノ如キハ分散ノ件ニ特權ヲ  
保ツコトナシ

米ヲ人ニ賣ルニ買入人ニテソノ米ニ符号ヲ  
記シタルノミニテ未タ買入人受取ラサル間  
ニ賣主分散トナリタル時ハ即チ買人ニテ之  
レヲ引取ルコトヲ得ル分散人ノ財産中ニハ入  
ラサルナリ

又既ニ米ヲ買ヒタリト虽モ其米ニ符号ヲ記  
シ

司 法 省

セサル中賣リ主分散トナリタル件ハ買入人  
之レヲ引取ルコトヲ得ス分散人ノ財産中ニ入  
リテ分派トナルナリ

人權ニテ訴訟起リ物權ノコトニ涉ル共其訴訟  
コト甲ノ裁判所ヨリ乙ノ裁判所ニ移スコトナ  
シ

タトヘハ此地ニテ空米ヲ賣ルモノアリ此地  
ノ裁判所ニテ取調ヘタルニ何モアルコトナシ  
却テ彼地ニハ土地モアリ家屋モアリ此時ハ  
此地ノ裁判所ヨリ言渡シタル書付ヲ原告人  
彼地ヘ持参シ使吏ノ手ヲ經テ三十日ノ間ニ  
渡スコトヲ命ス万一右三十日間ニ渡サハル時  
ハ彼地ノ使吏ノ權ヲ以テ取揚ルヲ得ルナリ



同上ノ場合ニテ米ヲ渡サ、ル時家屋地所等  
ヲ渡ス、トナル其時ハ証文ノ書替ニテ則チ  
之レヲ義務ノ更改トス民法千二百七十  
万一ソノ人分散ニナラントスル片ハ証文ヲ  
書替ヘ其義務ノ更改ヲ為ス、ト得ス  
本文ソノ物件ノ上ニ原告人ハ撰ミ、任セト  
云、ト補フ可シ是レ亦律文ノ是ラサル所ト  
云

又人権物権相混シタル例ヲ左ニ説ク  
未タ丁年ニ至ラサルモノハ人ト契約ヲ立ツ  
ルノ權ナシソノ契約ハ廢シテ可ナリ然レモ  
全ク廢棄ス可カラサルモノアリ其契約ニ付  
訴訟起ル時物主ハ幼年ノ人ナリ買主ハ契約

司法省

スベカラサル人ヨリ買タル故不正ノ所為ト  
ナルソノ時ハ幼者ヨリソノ物ヲ已レノ所有  
ナリト云ヒ又賣買スヘキノ權ナキ故其物ヲ  
引渡スヘシト云フ之レ人権物権相混スル者  
ナリ  
治産ノ禁ヲ受ケタル人及ヒ婚スル婦人皆自  
主自由ノ權ナキ、亦未丁人ニ異ナルナシ  
第五十九條第三項マテハ呼出シノ正則ナリ  
此第四項ヨリ以下ハ呼出シノ變則ナリ  
會社ノ、トニ付テハソノ會社ノ存續スル時間之  
レヲ設ケタル地ノ裁判所ニ呼出サルベシ  
會社ノ事ニ付テハ人権ニカ、ルト虽モ必ス  
ソノ會社ノアル地ニ於テ裁判ス



會社ニ其本社ノ定マラサルモノアリ此時ハ  
ソノ社中ノ住所ニ於テス人權ノ正則ニ循フ  
又存續スル云々トアリ既ニ存續セサル日ニ  
至リテハ前条ト同一ナリ

遺物相續ノトニ付其ノ分派ニ至ル迄ノ時間ソ  
ノ相續人等ノ互ニ為ス訴訟及ヒ分派ノ前死者  
ノ債主ヨリ為シタル訴訟並ニ分派ノ裁判官渡  
ノ確定ニ至ル迄ノ時間遺囑ノ贈遺ヲ執行フ  
ノ為メノ訴訟ニ付テハソノ遺物相續ヲ為スベ  
キ地ノ裁判所ニ呼出サル可シ

遺物相續ノ支ニ付テハ未タ分派セサル間ハ  
死者ノ住所ニ於テス此レ人權ノ本則ト異ナ  
リ既ニ分派スレハ否ラス

司法省

本文ニ分派スル迄ノ時間トアリ相續人幾人  
モアルハ其ハ此條ニテ可ナリ其一人ノ片ハ差  
支フル文ナリ然レモ相續人一人ナルハ右  
ノ時間ヲ待ツニ及ハス直ニ其相續人ノ所ニ  
於テスルナリ

又相續人数人アルハ協議セシムル為メ又  
後日混乱ノ起ラス為メニ其分派ニ至ル迄ノ  
時日ヲ延ハシソノ死者ノ地ニ於テ裁判ス  
一人ノ時ハ協議ニ及ハス故ニ時間ヲ待タサ  
ルナリ

然レモ善ク此一節ヲ解セサル可カラズ死者  
他人ヨリ預リ置クモノアル時ハソノ預ケ人  
ヨリ取返ス為メノ訴ハ本則ニ循フナリ



此一節三段ナリ第一他人ヨリ相続人ニ対スル訴訟第二死者ノ債主ヨリ相続人ニ対スル訴訟第三遺囑ノ贈遺ヲ執行フ為メノ訴訟ナリ

家資分散ノトニ付テハ分散人住所ノ裁判所ニ呼出サルベシ

家資分散トハイリトハ商人ノ上ニテ云フ通常人ノ身代ヲ仕舞フハ家資分散ト云ハス財産拋棄ト云フテコンフチール民法千二百六十五條以下見合

商人家資分散ト決スレハ管財人ヲヤニチツシテ定メ其者ニテ夫々財産ノ處置ヲナス故ニ債主ヨリ管財人ニ掛リ訴訟ス然ル片ハ管財

司法省

人ノ住所ニ呼出スベキ様ナレトモ變則ニテ其分散人ノ所ニ呼出スナリ

右管財人ハ債主ニテ撰ムナリ分散ヲナス片一時ニ債主ノ集マルトハ出来

サルナリ故ニ商法裁判所ニテ仮リノ管財人ヲ申付ケ置キ債主皆集マリタル上債主協議

シテ本管財人ヲ立ツ

常人財産拋棄ハ管財人ヲ立ルナリ

家資分散ハ人ニ金高ヲ拂フトヨ止メタル以

後ヲ云商法四百三十七條見合

財産拋棄ハ已レノ所有スル諸般ノ財産ニ悉

ク義務ヲ得ヘキ者ニ任カスルヲ云民法千二百六十五

合条見



家資分散ニ付民吏ノ関係シタル訴アル件ハ  
民事裁判所ニテ之レヲ裁判ス  
但シ債主ノ特権書入質ヲ云フ

司法省



第三号

訴訟法會議筆記

四月廿日

司法部



四月二十日會議

第五十九條第八項

保証ノ支ニ付テハ主タル訴訟ヲナシタル裁判所ニ呼出サルベシ

此條ハ甚々六ヶシキ所口ナリ先ツ保証ノ一柄ヲ説カン

保証トハ甲ト乙ト訴訟ヲナスニ甲ハ乙ニ勝タントスルニ付キ他ノ一人へ対シ防禦ヲナス為メ保証人ニナルヘキヲ依頼スル意ナリ

タトヘハ甲ニテ乙ヨリ金ヲ借ル時ハ債主負債主アリソノ時ニ當リ別ニ保証人アリ後ニ債主ヨリ負債主ニ金ノ返済ヲ求ムルニヨ

司法省

リ訴訟トナル如此時ハ負債主ハ必ラス自カラ防クヘシ保証人ヲ頼ミ防クノ理ナシ然ルニ債主ヨリ保証人ニ對シテ債ヲ求ル片ニ至リテハ保証人ヨリ負債主ニ對シ防禦ヲ求ムルノ理アリ

債主東京ニアリ保証人モ亦東京ニアリ負債主ハ西京ニアリソノ時債主ニテ便利ノ為メ保証人ヲ相手取りテ訴フル片ハ保証人ニテハ負債主ヲ呼ハサルヲ得ス是ニ於テ負債主ハ保証ノ為メ東京裁判所へ呼出サルベシ本則ナレハ原告人ハ負債主ノ西京ニ在ルヲ以テ西京ノ裁判所ニ訴フベキヲナレモソノ主タル訴訟ハ債主ヨリ保証人ヲ既ニ東京ニ



呼出サルベシ

負債主ヲ訴フルハ本則ナレモ保証人ヲ訴ル  
モ負債主ヲ訴フルモ債主ノ便利ニマカス  
此條ハ債主ノ為メニ甚々便利ナリト雖モ又  
負債ノ為メニ便利ナル様第百八十一条ニ補  
足スルナリ

前文ニ去フ如キ訴訟ニ於テ債主ニテ奸計ヲ  
ナス為メニ保証人ヲ訴ヘタル中負債主ニテ  
右奸計ヲ覺リ且ツノ証アル中ハ負債主ノ住  
所ノ裁判所へ債主ヲ呼出スヲ得ベシ

タトヘハ西京ノ負債主ハ富人ナリ故ニ保証  
人ヲ訴フルニ及ハス然ルニ東京ノ保証人ヲ  
訴フルハ何カ奸計アリトス此ノ如キモノハ

司法省

証アルヲ以テ負債主ノ住所へ引キ付ルヲ得  
ル

佛國ニ於テハ前ニ此條ヲ置キ後ニ第百八十  
一条ヲ置キ補足ス目下日本ノ如キハ必ラス  
負債主ノ住所へ訴フルニ於テハ如此心配ナ  
シ

二人ニテ同シク借りタルモノアリ債主ニテ  
甲ノ一人ヲ訴フル時ハ乙ノ一人ハソノ債主  
ノ撰ミテ訴ヘタル裁判所へ出サルコト得ス  
又一例ヲ舉ケン甲ニテ乙ノ家ヲ買フ故ニ其  
家ノ主ハ思フ然ルニ丙ノ一人来リテ我レ主  
ナリト云フテソノ取戻シヲ訴フ之レハ物權  
ニ付其物件所在ノ裁判所ニ訴フナリソノ時



買主一人ニテ勝タハ宜シ若シ一人ニテ勝タ  
サルノ見込アル中ハ元トノ賣リ主ヲ其裁判  
所ニ呼寄セ防禦ヲ為サシム之レ保証ナリ其  
時元賣主買主ニ対シ其訴ヘヲ救フヲ得サ  
ル中ハ裁判所ニテ元價ヲ返スベシト言渡ス  
ベシ此裁判ニ付テ買人ノ負ケトナリ買ヒタ  
ル家ヲ他ノ一人ニ渡ストニナル之レニテ一  
ト裁判済ムナリ然ル後其家ノ元價ヲ賣主ヨ  
リ取戻スヲ訴フ以時ハ人權ノ本則ニヨリ  
賣主住所ノ裁判所ヘ訴フ

前文ノ場合ニ於テ買主ニテ賣主ヲ呼ハスニ  
テ訴ヲナス如キハ無用心ノ甚シキナリ万一  
其訴負ケタル後賣主ニテ何故我ヲ呼ハサル

司法省

ヤ我レニ証書アリ我ヲ呼ヘハ負ケサルモノ  
ヲ今ニ至リテハ我レハ関セスト云フ中ハ此  
訴訟ハソレ切リニテ済ムナリ此ノ如キ地ニ  
於テハナキナリ如ク裁判ス

問

負債主既ニ借用金ヲ返シタル後其受取書  
ヲ失フタル中債主ニテ未タ之ヲ受取ラサ  
ル者ヲ申立更ニ貸金取戻シノ訴ヲ為スソ  
ノ時受取書ナキニヨリ負債主ニテ負ケト  
ナリ一旦裁判済ミタル上後日ニ至リ負債  
主リノ受取ヲ見出シタル中ハ二重ニ返シ  
タル分ハ取戻シハ出来ルヤ

答

既ニ裁判所ニテ裁判ヲ為シタル上ハ之レ  
ヲ取上ケス一旦裁判シタルモノヲ再ヒ取



上クル時ハ裁判轉輾シテソノ權ナシトス  
但一方ノ者其不正ナルヲ知ツテ之レヲ  
返ス時ハ格別ナリ之レヲ自然ノ義務ト云  
フ

問

日本ニテハ後ニ証ヲ見出シタル片ハ幾度  
ニテモ裁判ヲナスナリソノ得失イカド

答

左様ニテハ一時假ノ裁判ト云フモノナリ  
証ノ出ル毎ニ取揚ルルニテハ裁判ノ止ム  
時ナシ故ニ仏ニテハ取揚ケス

然レモ一旦裁判済タル後更ニ證ヲ出シ裁  
取消ヲ願フルヲ許スルハ凡十ヶ条アリ  
ハ十ヶ条ヲ見前文ノ如キハ十ヶ条ノ内ニ入  
ラス

司法省

第九項

証人ノ如ク執行フルニ付キ別段住所ヲ擇ミタ  
ル時ハ民法第百十一條ニ循ヒ別段擇ミタル住  
所ノ裁判所又ハ被告人ノ真ノ住所ノ裁判所ニ  
呼出サルベシ

住所ヲ擇ムトハ双方同意ニヨリテ撰ムトア  
リ又原告人ノ為ニ擇ムトアリ被告人ノ為メ  
ニ撰ムトアリ此条ニテハ原告人ノ便利ノ為  
メニ被告人ノ住所ヲ擇ムトニ就テ言フ之レ  
本則ナリ  
又變則アリ若シ被告人ノ便利ノ為メニ撰ム  
片ハ原告人ニテ他ノ裁判所へ訴出スルヲ得  
得ス



原告人ノ為メニ扱ミタルモトハ動カスヘカラ  
サルモノトハ為サス被告人ノ為メニ扱ミタ  
ルモノハ動カス可カラサルモノトス  
又原告被告双方ノ為メ何レノ便利ナルヤ契  
約各ノ文意不分明ナル中ハ必ラス被告人便  
利ノ方ニ擇フベシ之レ法律審明ノ本意ナリ  
民法千百六十  
二条見合



第四号

新法会议记录

七年四月廿五日

司法部



四月廿五日會談

第六十條 裁判所ニ管シタル官吏等代唇師使吏等ヲ云フ裁判所費用ノ償戻ヲ得ントスル時ハ以前ソノ費用ノ生シタル裁判所ニ之レヲ訴出スベシ之レ第五十九條ノツ、キニテ本則ニ違ヒタル一則ヲ挙クルナリ  
裁判所ニ管シタル官吏トハ使吏代唇人ソノ外唇記官モ此中ニアリ但シ代言人ハ関セズ代唇人ハ重ニ原告人トナルソノ譯ハ頼マレタル節入費ヲ請取置クト虽モ多クハ不足スルコトアル故ナリ故ニ使吏代唇師等ノ原告人トナル方ヨリ説クナリ  
通例ナレハ即チ被告人ヲソノ住所ノ裁判所

司法省

へ呼出スベキナレモ之レハソノ費用ノ生シタル裁判所へ呼出ス即チ變則ナリ  
然レモ能ク注意スベシ人權ニ付テノ訴訟ハ必ス被告人ノ裁判所へ訴フ被告人ノ裁判所ハ則チ費用ノ生シタル裁判所ナレハ自カラ正則ニ循フ譯ナリ若シ物權ニ付キタル訴訟ナレハ則チ本条ノ規則ニ循フ即チ變則ナリ又代唇師等ノ被告人ニナル時ヲ去ハニ即チ訴訟入費ヲ取りスキタル時ナリ  
代書師ハ裁判所ノ權限アリテ他ニ行クコト能ハス故ニ代唇師被告人ニナル時ハ則チソノ奉仕ノ裁判所ニ呼出サル、ナリ何トナレハ奉仕ノ裁判所ハ即チ本人ノ住所ニテ費用



ノ生シタル裁判所ニ訴フルコトナレハ之レ  
即チ正則ナリ  
ソノ裁判所へ訴ルノ故ハソノ訴訟事件ヲ取  
扱ヒテ能ク其支柄ノ分明ナレハナリ  
若シ代唇師免職シテ他ニ住所ヲ占ムル後訴  
訟ノ起ルハ即チ以前奉仕ノ裁判所へ呼出  
タサル、ナリ  
若シソノ代唇師死去セシ後訴訟起リタル節  
ソノ子孫遺物相続分派ノ済ミタルハ正則  
ナレハソノ子孫、各所ニ住スル裁判所へ訴  
訟スベキナレト代唇師ニ付キタル訴訟ニ  
即チソノ父ノ奉仕ノ地即チ裁判費用ノ生シ  
タル裁判所へ訴フルナリ

司法省

此ノ如ク変則多ケレトソノ変則中正則ノコ  
トモ亦多シ

第一裁判費用ノ生シタル裁判所ニ訴フル所  
以ハソノ道理ヲ能ク知了シ居ルニヘソノ裁  
判所へ訴フルコトナリ

代書師謝金目録ノ常制アリト虽モ別段六ヶ  
シキ訴訟ナレハ幾分ノ謝金ヲ増シ供ヘルコ  
トアリ此等モ此裁判所ニテ能クソノ支柄ヲ知  
リ居ル故ナリ併シ此ノ理ハ拙劣ト思フナリ  
何トナレハ以前ノ裁判官ニシテ能クソノ顛  
末ヲ知リタルモノ、調ヘナレハ宜シケレト  
必ラス前ノ掛リノ裁判官トハ定メ難シ殊ニ  
巴里ノ如キハ別ニ裁判費用等ノ事件ノミヲ



取調フル為メノ裁判官アレハナリ  
一局ニテ成レル所ノ裁判所ナレハ我カ言ノ  
如キノミナラサルモノモアルベシト虽モ裁判  
官ハ昇進シテ各所へ轉シ又退職スルモノア  
レハナリ  
又年月ヲスキテ訴フルニ前ノ掛リ裁判官ハ  
在職スルヤ否ラスヤ知ルベカラス  
タトヒ此ノ如キヲ訴フルトモ訴人ノ云フコ  
ト直ニ聽クコトニアラスソノ一件書類ヲ以  
テ其費用ノ額ヲ定ムルコトニ何レノ処ニ  
訴出ス出スルモ宜シキニアラス  
故ニ前ノ掛リ裁判所へ訴フルノ説ハ立タサ  
ルコトナリ

司法省

否ラス若シ代書師等不正ノコトヲナスハ  
ソノ裁判官ニ於テハ督責ノ權アリ又免職ヲ  
モナスノ權アリ故ニ其裁判所へ訴フル誤ナ  
リ  
然リト虽モソノ代書師等ノ免職又ハ死去ス  
ルコトアレハ罰スルコトハ出来サルナリ故  
ニ以上道理ト云ヒタルモノ皆不道理ナリ  
因テ考フルニソノ謝金ヲ取過キタル分ハ何  
レノ裁判所ニテモ取戻スコトハ出来ルナリ  
故ニ本条中償却ヲ得ント欲スルトモ下へ  
ソノ職務ヲ行フノ間ノ一語ヲ加ヘサルベカ  
ラズ

此條ハ立法官ニテ代書師等ノ弊害ヲ矯ムル



為メニ立タルモノナレモ其免職又ハ死去等ノ節ハナスベカラサルニ至レリ

### 餘論

此条ハ専ラ代唇師等ノ被告人トナル件ノ為メニ設ケタリ

元来法律ハ正則ニ依ルヲ主トス變則ハ少キ方宜シ

代唇師ノ原告人トナルトキハ必ラス變則トナル

巴里ニテハ此ノ如キ訴訟ノ為メニ別局ヲ立ツルハ古ヘ以類甚々多シ即今ハ代唇師會社アリテ大抵ハ右ノ會社ニテ調へ濟ミトナルユヘニ甚々少ナシ

### 司法省

昨年珍ラシキ訴訟アリ代唇師ニテ八千「フ」ラニクノ謝金ヲ取ラントセシコトアリ自分教師ニモ相談アリタリ賴ミタル人ハ四千「フ」ラニク「フ」典ヘント去ヒタリ然ルニ會社並ニ裁判官ナトノ見込ニテ六千「フ」ラニク「フ」遣ル「フ」トナレリ

元来謝金目錄定制ノ外ニ別段ノ謝禮金ヲ遣ラサルベカラズ若シ常例ノ外ニ遣ラズト云トキハ裁判官ニテ適宜ニ謝礼ヲ遣ルベシト言渡スナリ右ハ夫々入費又ハ時間ヲモ費ヤス故ナリ然レモ弊アリ良法ニアラス之レニ反シテ代言人ハ自ラ謝金ヲ求ムル「フ」得ス賴ミタル人ノ贈與スル「フ」以テ足りト



スルノ外ナシ故ニ其謝金多クテモ辞セズ又  
贈與セザルトモ訴フルコトヲ得ズ

代言人ハ訴訟ニ付キ頼ムモノ、本心ヨリ贈  
ルモノハ請ルコトヲ得ベシト虽モ謝金何程  
出スベシト預シメ約束スルコトハ禁スルナ  
リ

別段ノ謝礼ハ使吏ニハ贈ルニ及ハス但シ過  
分ニ入費ヲ取り居ルコトアレハ訴訟トナル  
ナリ

妻ニ寄り別段力ヲ尽スコトアリソノ片ハ別段  
ノ謝礼ノアルコトモアリ

代言人ヲ頼ミタリトテ贈ルベキ金ナキ件何  
程贈ルベシト証唇ヲ出スコトアリ後ニ右ノ

司法省

金ヲ贈ラストモ其証唇ヲ以テ訴フルコト能  
ハス

本条外ニ変則トナルコト更ニ述ヘントス

民生証唇ニ有心又ハ過誤ニテ誤字唇損等ア  
ルコトアリソノ取調ノコトヲ訴フルニハ変則

トナルナリ其訴ハ我子タルヲ認ムルカ又ハ  
夫婦離縁等ノ身分ニ関スルノ訴トハ異ナリ

之レ全ク証書ノ誤リノミヲ訴フル件ノコト  
ナリ

右ハ人ニ対スル訴ニアラス書類ニ対スルノ  
訴ナリ

民生証唇ノ誤リニ付テハ自カラ言ヒ誤マリ  
シモ知ルベカラズ故ニ此ノ如キ訟ハ被告人



アルトナシ

右ノ訴ヘニハ呼出状ナシ使吏ノ取次ニテ裁判所ヘ願書ヲ出ス之レヲ檢査ニ廻ハスソノ時始メテ檢査ハ被告人トナルナリ此ノ訴訟ハ何レノ裁判所ヘ差出スベキヤノ法律ニ記載セスト虽モ最初民生証書ヲ記載セシ裁判所ニ差出スコトナリ通常至急吟味ヲ乞フ時モ願書ヲ出スナリソノ時ハ裁判所長ヨリ許諾返書ヲ出ス民生証書ノ願書ニ付テハ返書ヲ出スコトナシ何トナレハソノ吏柄ヲ必ス取調サルヲ得サレハナリ

司法省

右ニ付テ道理アリ通常至急吟味ハ許スト許サ、ルトノ裁判官ソノ緩急ヲ見計フコトナリ此民生証書取調ノ願ニ於テハ即チ裁判ヲ願フナリ之レヲ取揚ケサルハ裁判ヲ拒ムニ屬ス

民法第九十九条ニハ唯ソノ所轄ノ裁判所ト記載セリ夫レニテハ分明ナラス必ラスソノ書類ノアル裁判所ヘ訴出ツベシト改正スベシ吏柄ニヨリ親類等ニ被告人ノアルコトモアリ民法第百條ヲ見合スベシソノ被告人アリト虽モ被告人ノ裁判所ヘハ出テス

第六十一条 呼出状ニハ左件ヲ記スベシ  
第一年月日原告人ノ姓名職業住所ノモノニ



代ルベキ代書師ヲ任シタル莫及ヒ原告人ソノ  
代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル莫  
但シ代書師ノ家ニ別段住所ヲ擇ミタル事ナキ  
時ハソノ旨ヲ記スベシ

呼出状ニ年月日ヲ記スト且モ何曜日トハ記  
セス

何ノタメニ日ヲ記スト言ヘハ日ヲ記セサレ  
ハ呼出状ノ日限分明ナラス右ハ幾日ノ時間  
ニ裁判所ニ出ル云々ノトアルニハナリ  
礼式ノ日ハ勿論日曜日ニハ呼出状ヲ出スコ  
トヲ得ス但シ至急ノ莫ニ付テハ願書ヲ出シ  
許シテ受クベシ第六十二條見合  
使吏ノ呼出状ヲ看ク時何月何日何某ノ願ニ

司法省

依テト記ス被告人一見シテ原告人何某ノ呼  
出ニテ何日ニ裁判所ニ出ツルコトヲ兼知ス  
ルナリ

佛ノ法ニテ代書師ナシニハ訴フルコトヲ得  
ス故ニ代書師ハ何某ト記ス

此呼出状ヲ遣レハ被告人ヨリ返書ヲナスニ  
呼出状ニ別段住所ヲ振ミタルトテ書セサル  
ハ原告人ノ本住所ノ代書師ノ宅ニ送ル

本住所ヘ往復スル中ハ遠隔ノ地等ハ不便利  
ナリ故ニ右等ハ別段住所ノ地ノ代書師ノ家ニ  
別段住所ヲ振ムトナリ

然レモ原告人ニテ必ラスソノ家ニ寓スルニ  
アラズ



本文住所ヲ振ムトトハ代居人某ノ家ニ住居  
シタル旨ヲ記載スルヲナリ  
但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ振ニタル件  
何區何某ノ家ニ住所ヲ定メタル旨ヲ記載ス  
ルヲナリ

司法省



第五号

訴訟法會議筆記

四月三十日

司法部



四月三十日會議

前會第六十一条ノ第一住所ヲ擇フ莫トハ  
代書人某ノ家ニ住居シタル旨ヲ書載スルコ  
トナリ

但書ハ代書人ノ家ノ外ニ住所ヲ擇ミタル件  
何區何某ノ家ニ住所ヲ定メタル旨ヲ記載ス  
ル事ナリ

第二 呼出状ヲ送達スル使吏ノ姓名住居授任  
状。被告人ノ姓名住居並ニ呼出状ノ副本ヲ別ニ  
受取ルヘキ者アル時ハ其者ノ姓名ヲ記スベシ  
前項ニ原告人ノトヲ記スノミニテハ呼出ノ  
効ナシ依テ此項ニ使吏ノトヲ記シ又被告人  
ノトヲ記シ又其受取人ノトヲ記シテ始テリ

司法省

ノ効ヲ生スルナリ  
被告人ノ姓名云々右ハ知ルヲ得ベキニ於テ  
ハ姓名トモニ記載スト虽モ姓ノミニテモ足  
レリトス職業等記スルニ及ハズ  
別ニ受取ルベキ云々呼出状ハナルベキ丈  
本人ニ渡スベキヲナレモ本人ナキ時ハ本文  
ノ通り親族從者近隣ノ者ニ渡シ置クコトヲ  
得ルナリ第六十八条見合  
本人ニ呼出状ヲ渡スコトハ必スソノ家ニ於  
テスルニ及ハス途中ト虽モ之レヲ渡シテ苦  
シカラズ

然レモ裁判所ニ在ル中又ハ議院ニ出席ノ時  
又ハ寺院ニテ説教中等公礼儀式ノ場ニテハ



右状ヲ渡スコトナシ

其公礼儀式中ニ右状ヲ渡サ、ル譯ハ二説アリ一ニハ右ノ状ヲ渡スタメニ傍人々驚駭ヲ醸シ満坐ノ妨害ヲ為セハナリ

二ニハ右等ノ節受取ルモノハ讀ムコトヲモ出来ス直キニ懷中シテ遂ニ忘却スルニ至ルコトアレハナリ

使吏ソノ家ニ行キテモ本人不在ナル時ハ其親族又ハ僕婢ニテモ居合セタルモノニ渡置コトヲ得ル

右ノ場合ニ於テ法律上ニテ丁幼ヲ論スルコトナシト虽モ幼者ニハ渡置クコトヲ為サズ若シ幼者ニ渡スコトアレハソノ使吏ニ罰アリ

司法省

ソノ事ヲ辨スベキ程ノモノナレハ婦女子ニテモ之レヲ渡シテ差支ナシ

右親族僕婢ニ渡シタルトキハ使吏ヨリ其受取ヲ請ハス又其親族僕婢モ受取、印ヲ押スニ及ハス又被告人自カラ受取タルモ受取唇ヲ出スニ及ハス但シ親族僕婢、受取リタル時ハ本文ノ通り使吏自ラ其呼出状、正副本ニソノモノ、姓名ヲ記入スルナリ

原来使吏ハ奉職ノ始メ誓ヲナシタル官吏ニテ右等職務ノ取扱上ニ於テ詐偽ヲナサ、ルモノトス故ニ受取、証ヲ他人ニ請ハストモ自身ノ記入ニテ十分ノ証アリトス若シソノ



書面ニ詐偽ヲ為シタル時他人ヨリ訴へ出て  
其事実詐偽ノ証出ル迄ハ真正ノ者トス其果  
シテ詐偽ニ極マル中ハ勿論其嚴罰ヲ受クル  
コトナリ

若シ受取りタル者親屬婢僕同居ノ者ニテ其  
状ヲ紛失セシムルトキハ使吏ノ罪ニアラズ  
被告人ノ家変不取締ニ歸スルナリ  
被告人其呼出ヲ知ラスシテ裁判所ニ出席セ  
サル時ハ欠席裁判トナル然レモ其裁判ニ不  
服ナル時ハ右行違ノ故ニ因リ故障申立ル  
ヲ得ル故ニ補ヒノ出来サルモノトス  
若シ呼出状ヲ渡スニソノ者ヨリ受取ヲ請フ  
テ始テ之レヲ証トナス中ハ必スシモ使吏ノ

司法省

職掌ヲ待タスシテ可ナリ然レモ其状ヲ持行  
キタル中被告人ノ処ニ誰レモ居合セサル  
アリ或ハ之レヲ避ケテ故ラニ不在スル  
リ然ル時ハ何時マテモ裁判ヲ得ル能ハス原  
告人ニ於テ迷惑少カラズ  
又爰ニ一説アリ別段貸錢ヲ高クシ郵便ニ托  
シ本人ニ手渡シテ他人ニ渡サヌ法アリ此ノ  
呼出状モ此ノ取扱フニナシタラハ然ラント  
然モ亦不都合アリ被告人ソノ呼出状ヲ得テ  
裁判所ニ出サルモノアリ裁判所ニテ之ヲ詰  
問スルニ書状ヲ得タルハ呼出状ニアラス他  
ヨリ金ヲ送りタルナリ請待ヲ受テタルナリ  
ト言ヒ終ラヌトアリテ誰モ其書ヲ検査シタ



ルモノニ非ラサレハ其真偽ヲ區別スル能ハ  
ス甚タ困難ト生ス  
故ニ一種ノ權アルモノニテ擔當シ過キアレ  
ハ必ス罰ヲ受ルモノナカル可カラズ之即チ  
使吏ヲ置ク所以ナリ  
又被告人及ヒ一家不在ノ時ハ必ス接近ノ隣  
人ニ渡シ置クト得ル其近隣ト云フハ構上  
ヲ始メ四隣ヲ近隣ト云フニ階家アル中ハ下  
タニ住スルモノヲ呼出スニ構上ハ尤モ近隣  
ナリ  
其近隣ノ人受取リタル時ハ其使吏其近隣ノ  
者へ責ヲ帰スルタメニ其受取ノ證アルトテ  
要ス詳ニ第六十八條ニ見ヘタリ

司法省

法律ニ於テハ一軒ヲ隔テタル家ニ渡ス可カ  
ラスト云ハサレ共使吏ニテ其隔リタル家ニ  
ハ之レヲ渡サス  
又近隣ト虽モ醉人又ハ平生不行跡ニテ頼ル  
可カラサルモノヘハ之レヲ渡ストナシ  
頼ルベキ人ニ之レヲ渡ス中ハソノ者正本ニ  
ソノ姓名ヲ手署スルナリ  
若シ之レニ姓名ヲ手署スルトテ得ス又之レ  
ヲ拒ム時ハ使吏邑長副邑長ニ渡シ其ノ檢印  
ヲ受クルナリ第六十八條ニ詳カナリ  
然レモ第六十九條第八項ノ場合「仙蘭西國內  
ニ分明ナル住所アラサル者ヲ呼出ス時ハ此  
例ヲ用フベカラズ



其時ハ同項ニ記載シタル通りソノ訴ヲナシ  
タル裁判所ノ門扉ニ貼付スルナリ

第三 訴訟ノ目的及ヒ訴訟ヲナス憑拠ノ簡略  
ナル辨明

訴訟トナル可キ目的何等ノ事ト云フヨ記ス  
不動産取戻シ訴ナラハ取戻ス所ノ目的又所  
有ノ權ノ訴ナラハ所有ノ權アル目的ヲ巨細  
ニ記スベシ

右訴訟ニ付此ノトハ如何ト問フニアラス此  
トヨ如何処分スヘシト申遣スナリ  
又唯金ヲ貸シタルトハカリニテハ其更分明  
ナラス何ヲ賣リタル金トカ又ハ家賃ノ滞リ  
トカ云フ其緣由ヲ記ス

司法省

又其私ノ証書アル時ハ其証書証拠トナスベ  
キ旨ヲ記スベシ万一証拠トナルヘキ私ノ文  
書ナキ時ハ人ヲ以テ証トナストヨ記スベシ  
公正ノ証書ハ此等ノ弁解ヲ用ヒストモ十分  
ナリ

右等ノトヨ記載スル所以ハ被告人ニテ之レ  
ヲ一見シテソノ訴訟ノ相当ト不相當トヲ認  
メテ其覺悟ヲナス為メナリ  
不動産ナレハ物件所在ノ地名ヲ記シ小名ア  
レハ其小名ヲモ記ス可シ

右ニテモ不足ナリ其隣地ヲモ記ス  
町名番号アレハ亦之レヲ記ス時トシテハ此  
ノ如ク詳細ナルニ及ハス其一團ヲナシタル



不動産ノ字アルノ類ナリ譬ハ上野淺草ト云フカ如シ第六十四條見合

右ノ通り記シ置クハ被告人ニ疑ヲ生セサラシムル為メナリ

此項三段ト區分シ一ニハ其支物ノ目的ニハ其緣由次第三ニハ其確實ナル証拠ナリ

第四 訴訟ヲ審判スベキ裁判所及ヒ其裁判所ニ出席スベキ猶豫ノ期限

物權ナレハ其物件所在ノ地ノ裁判所ヲ犯シ又被告人數人アル時又會所アルノ場所定マラサル時等ハ其會社中一人ノ住所ノ裁判所ニ出席スベキトテ定メ記スナリ  
ソノ裁判所々在ノ地名ヲ記入スルナリ

司法省

右ハ訴訟ニ慣レサルモノモアルユヘニ念ヲ入ル、ナリ

猶豫ノ期限トハタトヘハ裁判所近傍ニ住スルノ人ヲ呼出スニモ四月三十日ニ呼出状ヲ出スナラハ中間八日ノ猶豫ヲナシ来ル五月九日出席スヘキ旨ヲ記ス

法律ニ定メタルナト、各クベカラス法律ハ人民一般ニ知ルト看做シアレモ中々全國人民皆能ク知ルモノニアラス

右ノ數ヶ条ハ原告人ニテ取調ヘ申述タル上使吏ニテ呼出状ニ記入スルナリ同区内トモ距離遠近ノ違ヒニテ日限ノ違ヒアリナメリヤメートル毎ニ二日ノ猶豫ヲ與フ物



權ノ時ハ猶大切ナリ各地ノ距離ヲ知ラサル  
モノ多シ

又被告人多キ時ハ日數ヲ費スナリソノ猶豫  
ノ原則ハ第七十二條ニアリ仙蘭西國內ニ住  
居スル者ニ付テハ總テ八日ノ猶豫アリ里程  
遠キ時ハ五<sup>リ</sup>ミリヤメートル毎ニ別ニ一日ヲ  
増加ス

八日トハ中間八日ニテ呼出狀到着ノ日ト裁  
判所へ出ル日トハ除イテ八日ノ内ニ算入セ  
サルナリ  
祭日ニ當ル日ハ呼出狀ヲ出サス又裁判所へ  
モ出テス

司法省

又右ノ八日日休日ニ當ル時ハ其翌日ニ呼出  
ス<sup>ト</sup>ナリ若シ其祭日八日中ニアルモノハ期  
限中ニ算入スルナリ

右ノ八日通常ノ本則ナリ至急ノ節ハ原告人  
其期限ヲ縮メテ呼出ス<sup>ト</sup>ヲ願フヲ得ル

原告人ハ何レノ時モ至急ナル<sup>ト</sup>ヲ欲セサルナ  
シ然レモ裁判官ニ於テソノ事柄ノ急ニスヘ  
キト否ストヲ見計ラヒソノ願ヲ許ス<sup>ト</sup>アリ  
許サ<sup>ル</sup>トアリ

此願各ヲ差出ス<sup>ト</sup>ハ裁判所ニ限ル<sup>ト</sup>ニアラ  
ス<sup>ニ</sup>裁判官ノ宿所へ至リ願フモ可ナリソノ時  
ハソノ宿所ニテ之ヲ許ス<sup>ト</sup>アリ第千四十  
条ヲ見合スベシ

右諸件ヲ記セサル時ハ其呼出狀ノ効ナカルベ



此六十一条ノ内一ヶ条ニテモ欠ケタルトアレハ呼出ノ効ナシ

若シ使吏ノ誤ツテ記シタル件ハ書直ス計リニテ被告人ノ損トナルトナキナリ

其誤書シタル件ノ入費ハ使吏己レニ擔當スベシ第千三十一条見合

裁判ニ取掛ル時ハ必ス裁判官ニテ其呼出状ヲ検査スルナリ

右ノ効ナキ呼出状ニ付被告人ノ出席セサル時裁判官ニテ其本書ヲ檢シテ其誤アルヲ知レハ裁判ヲナサ、ルナリ

若シ裁判官ニテ心付カス欠席裁判ヲナスコトアリテ後ニ被告人ヨリ故障ヲ申立ル件ハソノ裁判入費ハ一切使吏ヨリ出スナリ

司法省

再度ノ裁判ニ被告人ノ負ケトナリタルトモ初メノ欠席裁判ノ入費ハ使吏ヨリ出スナリ

右誤書等ノ場合ニ付大切ナル二件アリ

裁判官呼出状ヲ檢シ欠誤アル時裁判ヲナサ、ルハ其裁判ヲ拒ムニアラズソノ欠誤アルヲ以テ其要件ヲ了解スルト能ハサル故裁判ニ取掛ルト能ハスト云フ意ナリ之レソノ一ナリ

又呼出状ノ不都合ハ大抵使吏ノ過チニアリ

ソノ罰ハ八、ラ、シ、ク位ノ罰金ニテ済ムトアリ



レ共夏柄ニヨリ時ニヨリテハソノ償ヲナス  
為メニ百万フランクノ出金ニ及ラテアリ之  
レカ為メニソノ株式ヲ失ヒソノ身代ヲ抛棄  
シテモ足ラサルニ至ルテアリ之レソノ二十  
リ  
譬ヘハ「フレスクリゴシヨ」ニ期將ニ尽ント  
スル頃原告人ヨリ訴ヘタルモノヲ使吏ニテ  
ソノ期限ヲ怠リテ呼出状ヲ出サ、ル如キノ  
類原告人ノ損失莫大ナルヨリソノ責使吏ニ  
帰シテ此ニ及ラナリ  
公礼儀式等ヲ節ニ呼出状ヲ送達スルハ全ク  
効ナキニハアラス使吏ニテ「五フランク」ヨリ  
百フランクマテノ罰金ヲ言渡サルトナリ

司法省

使吏ハ巴里ノ下等裁判所中ニアルモノヲ合  
セテ六十人トス当時ハソノ負ヲ増スモ計リ  
難シ但シ區裁判所ノ使吏ハ此中ニ算入セス  
法律ニ効ナシト記セサル分ハソノ呼出状ニ  
於テ効ナシトセスソノ過チハ使吏ソノ責ニ  
任シ罰ヲ受クルナリ使吏ソレ慎マサルヘケ  
ンヤ故ニ日本ニ於テ此使吏ヲ置ク片ハ温厚  
篤実且才アリ家資富有ノモノヲ扱ハベシ  
仏ニテ使吏ハ身元金ヲ大藏省ニ預ケシ上免  
許状ヲ得然ル後ニアラサレハ使吏務ヲナス  
トヲ得ス之レナリ



司法省



第六号

訴訟<sup>法</sup>會後筆記

七年五月廿

司法省



五月五日會談

第六十二條 使吏ヲシテ呼出状ヲ送達セシムル謝金ハ一日分餘ノ額ヲ拂フヘカラス  
使吏呼出状ヲ送達スルニソノ裁判所々在ノアルロンヂスマニ中ノ遠キ所マテ行クニアリソノ時ニテモソノ送達ノ旅費ハ一日分ノ外之レヲ拂フナシ  
佛ニテ以前ハ二日モカ、ルナレ共近時ハ往來ノ便大ニ閑々タルニヨリ二日モカ、ルナシ假令二日カ、ルナレトモ一日分ヨリ外ソノ旅費ヲ拂フナシ  
裁判所ヨリ被告人ノ住所マテ五キロメートル迄ハ一錢モソノ旅費ヲ拂フナシ

司法省

五「キロメートルヨリ十「キロメートル迄ハ四「フランクヲ払フ  
十「キロメートル以上ハ五「キロメートル毎ニ二「フランクヲ増ス  
増シテ二十「フランク迄ニ止マル之レ即チ一日分ナリ  
日分ナリニ叶フ「フランクハ五「フランクニ當ル  
若シ二日モカ、ル時ハ使吏自費ニテ之レヲ辨ス佛ニテハ往來ノ便アルエヘソノ旅費二十「フランクニ止マルトモ使吏ノ損トナルナシ其近キ処ニテハ随分羨餘モ之レアルエヘ自ラ兼除スルナリ

右ハ裁判入費目錄中ニ詳カナリ  
第六十三條 裁判所ノ上席人ヨリ允許ヲ得サ



レハ祭日ニ呼出状ヲ送達ス可カラス

祭日ニ呼出状ヲ出スニ効ナキニアラス使吏ニ過チアレハソノ責トナルコト前ニ説キタリ

第六十四條 物權ノミニ管シタル訴訟又ハ人權ト物權ト相混シタル事ニ付テノ訴訟ノ時ハ呼出状ニ不動産ノ種類ソノ所在ノ邑ノ名及ヒ知ルヲ得ヘキニ於テハ其邑中不動産所在ノ部分並ニソノ不動産ニ隣レル地ノ中少ナクトモ二箇所ヲ記ス可シ但シ一團ヲ為シタル不動産ニ管シタル時ハソノ名トソノ所在ノ地ヲ記スルノミヲ以テ足レリトス若シ此等ノ事ヲ記セサル時ハソノ呼出状ヲ取消ス可シ

司法省

此條土地ヲ記スルノ第六十一条ノ第三ノ下ニ説キタリ故ニ此ニ贅セス

第六十五條 此條勸解ノトアルニ付先ツ勸解ノ概略ヲ説ク

千七百九十年代佛蘭西ノ大变革ヨリ蘭英ニ勸ヒ此勸解ノ法ヲ用ヒタリ  
此時ヨリ英ニ行ハル、陪審ヲ用フ  
佛ニテハ何レノ國ヲ論セス美法アレハ取テ用フルノ説アリ

治安裁判官ニテ必ラス相争フ双方ヲ呼寄せ裁判所ノ中ニアル自分ノ室又ハ自分ノ宿所ニテ通常ノ衣服ニテ父ノ子ニ教フル如ク勸解ス此時ハ裁判官ト云ハス勸解人ト云フ又



其場所ハ裁判所ト云ハス勸解所ト云フ  
勸解ハ人権物権トモ必ス被告人住所ノ治安  
裁判官之レヲナス動産不動産等ノ別ヲ立ツ  
ルヲナシ

ソノ住所ニテ勸解スルハ平生ソノ原告被告  
ノ一方ノ者ヲ能ク知ル故ニ勸解為シ易キヲ  
以テナリ

ソノ支柄ニ付勸解ヲ受クルニ及ハサルモノ  
アレハ大抵必ス勸解ヲ受クルヲナリ  
タトヘハ甲ト乙ト訴ヲナスニ丙ヨリ故障ヲ  
ナスソノ丙ハ新々ナル人ナレハ之レカ為メ  
勸解ヲナスヲナシ何トナレハ甲乙ハ既ニ勸  
解出来スシテ訴訟ニナリタルニ今又丙ニ勸

司法省

解ヲナス共益ナシ徒ラニ時間ヲ費ヤスノミ  
ナリ

又訴訟中新ニ償ヲ申立タルトモ主タル訴訟  
勸解スヘカラサレハソノ償ニ付勸解スルヲ  
ナキナリ

右訴訟ニ付保証人ソノ訴ヘニ関スルヲアル  
トモ此亦勸解ヲ為サルナリ

故ニ一旦主タル訴訟ヲ始メタル上ハ勸解セ  
サルヲナリ第四十八條見合主タル訴訟ヲナ  
サ、ル前ハ必ス勸解スルコトナリ

勸解ハ各自己レノ權利ヲ以テソノ事物ヲ自  
由ニ取扱フヲ得ヘキ權アル人ニアラサレハ  
之レヲナサ、ルナリ



幼年又ハ人ノ妻治産ノ禁ヲ受ケタルモノ等  
リノ妻物ヲ自由ニ取扱フヲ得サル人ハ其ノ  
後見人管財人支配人等一々相談シテ允許ヲ  
受ケサレハ能ハサル故ナリ

若シ勸解ヲナサントセハ右教人ヲ呼寄セサ  
ルヲ得ス然ル時ハ其手数モ多クシテ容易ナ  
ラス理ニ於テ当然ノトニアラサルナリ  
第四十九條ノ目ニアルモノハ總テ勸解ニ及  
ハストス何トナレハ政府縣邑等ノ事件ニ付  
テハソノ會議員ヲ尽ク呼ハサレハ能ハス是  
又理ニ當ラサルトナリ  
自主ノ權ナキ者勸解ニ及ハサルハ勿論又ソ  
ノ人ハ勸解スヘキ人ト虽モソノ争フ所ノ妻

司法省

和解ヲナスヲ得ヘキ妻ニアラサレハ勸解セ  
ス  
タトヘハ子ヨリ人ヲ指シテ我父ナリト訴フ  
ル如キ之レナリ  
又夫婦別居ノト夫婦財産ヲ分ツト婚姻取消  
ノト等モ亦同シ

尤モ夫婦争ヒテ勸解スルトアレ共其時ハ縣  
裁判所ノ裁判官之レヲ為スナリ治安裁判官  
ニテハ之レヲナサ、ルナリ  
右ノ道理ハ治安裁判官ヨリハ縣裁判官ハ威  
權モアリテ勸解モ能ク行届ケハナリ且治安  
裁判官ハ夫ノ朋友ナトニテ多ク相狎ル、ノ  
嫌アリソノ妻柄佛ニテハ郑重ニナスユヘナ



リ民法離婚夫婦別居ヲ訴フル  
等条ニ詳カナリ

右ハ訴ヘタリトモ必スソノ訴ノ通りニスル  
モノニアラス其条理ヲ篤ト裁判官ニテ兼知  
セサレハ之レヲナサハルナリ

離婚ハ重キコトニナラサル様却テ治  
安裁判官ニテ勸解シテ可然トノ説アレ共治  
安裁判官ハ平日相逢フコトニ輕ニシテ夫婦  
互ニ感セサルノ意味アリ

若シ勸解シテ不兼知ナレハ必ス別居セシメ  
テ夫々ソノ家屋ヲ擇ヒ及ヒソノ給料ヲ與フ  
ル

子アレハソノ子ノ引受等マテノ手ヲ付ケサ  
ルヲ得ス此等ノコトハ治安裁判官ニテ之レヲ

司法省

処置スルノ權ナシ之レ亦縣裁判所ニテ勸解  
スル所以ナリ

勸解スヘキコト○勸解スベキ人○主タル訴訟  
以三件ニ限リ勸解スルナリ

然レモ至急ノ場合又妻情ニヨリ勸解ニ及ハ  
サルモノナリ

○商業ノ妻○家賃ノ妻○土地借貸ノ妻○利  
息ノ妻等ナリ

又被告三人以上ノ時ハ勸解セス然レモ之レ  
ニ反シ原告人多クシテ被告一人ナレハ勸  
解ス

右ノ理ハ人情大抵拒ムコトアル故ニ被告人多  
數ナル時ハ必ス之レヲ拒ミ勸解トバカサル



モノナリ

原告人ヨリ勸解ヲ願出ル時ハ既ニ一步自ラ  
退キ相談スルノ情アル故被告人ハ必ス之レ  
ニ兼シ多人同腹ニテ申張ル故勸解セサルモ  
ノトス

タトヘハ外国入ヨリ我政府ニ雇ハレ度  
願フ時ハ政府ニテハ成ル丈ケ給金ヲ賤シク  
シテ使ハント云ヒ外國人モ終ニ賤給ニ從フ  
カ如シ四海兄弟ト云ト虽此等ニ至テハ勸解  
所アリ

總テ願ヒ出ルモノハ損ナリ  
此四十九条ノ目ニ於テハ大ニ議論アリ今ハ  
七項ノ内二項ヲ取レリ

司法省

第一項 官府及ヒ云々ハ無論勸解ニ及ハサ  
ルモノニテ其処ニ掲クルニ及ハス

第三項 主タル訴訟云々モ原ヨリ勸解スベ  
カラサルモノユヘ亦々掲クルニ及ハス

第四項 商業ハ急ナルモノニテ之レモ掲ク  
ルニ及ハス之レハ第二項ノ迅速ナル中ニ含  
有スルナリ

第一項ハ行政上ニ関スルナリニテアラス民吏ニ  
関スルナリ

第五第六項モ記スルニ及ハス年金養料ノ松  
方等原ヨリ勸解ノ出来サルモノナリ

第五項中負債ヲ償ハサルニ付キテノ禁錮ハ  
已ニ廢シタリ



但シ刑吏ノ裁判ノ費用ト罰金ヲ払ハサル  
トニ付テハ尚ホ禁錮アリ

右等ノ如ク他國ノ法律ニ於テモ不備ノ所アリ故ニ之レヲ其終日本ニ行フべカラス我國ノ害ヲ他國ニ及ホスナリ  
併シ以法ヲ立テタルノ宜シカラスト云ニアラス法律編輯ノ宜シキヲ得サルヲ云ナリ  
勸解ハ現地多分行ハル、トナリ左スレハ此吏ヲ如以云々ト治安裁判官ニテ証者ニ認メ約定ヲ立サスルトナリ  
其約定ハ更改スベカラサルモノナリ  
又其勸解調ハサル時ハソノ調書ノ寫ヲ受取り後訴訟ニ呼出ス時使吏吏ニ渡スナリ

### 司法省

治安裁判官ハ公正ノ官吏ナリ然ルニ第五十四條ニ私ノ契約者ノカアリト者キタルハ甚宜シカラス治安裁判官ノ者キタルモ公正ナル故ニ万一詐偽アリテ他人ヨリ偽リナリト訴フルマテハ正シキ証トスルモノナリ  
公証人ノ証者ハ何方へ持出ストモ公正ノ証者ニテ通ルモノナリ治安裁判官ノ者キタルモノハ裁判所ニ持出サレハソノ効ナシ  
何故ニ公証人ノ証者ト治安裁判官ノ証者ト者ノ如ク違ヒアリヤト云ハ、以法律者ヲ作ル時ハ國議院ニテ草案ヲ拵ヘタルモノナリ其節ノ考ニ治安裁判官ノ者タルモノ一般公正ノモノトスル時ハ勸解々々ト云ツテ皆ナ



治安裁判官ノ唇付ヲ乞フニ至リ公証人ハツ  
ノ職ヲ曠ラスルニ至ル故ニ治安裁判官ニ權  
ヲ付ケサル為メニ如此ナシタリ  
右ノ譯ハタトヘハ一万「フ」ラシクノ契約唇ヲ  
公証人ニ頼ム時ハ三百「フ」ラシクノ書貸アリ  
之ヲ治安裁判官ニ頼ム時ハ一錢ノ費ナシ是  
其公証人ニ頼ムモノナキニ至ル原因ナリ因  
テ此ノ私ノ字ヲ下シテ暗ニ公証人ヲ助ケタ  
ルモノナリ  
故ニ公証人ノ唇キタルモノハソノ僞公正ノ  
唇トナリテ何地ニテモ行ハルレトモ治安裁  
判官ノ唇キタルハ同シク公正ノ証唇ニシテ  
一応裁判所ニ出サレハ其用ヲナサス

司法省

公証人ノ証唇ノ末文ニハ「オー」ノシテ。ヒユフ  
ロブランセル」ノ文アリ  
佛蘭西人民ノ名ヲ以テノ義ナリ之レヲ日本  
ニテ云ハ、  
天皇陛下ノ御名ヲ書クカ如シ此公正証書ノ  
重キ所以ナリ  
此以下再ヒ勸解ノ「フ」ヲ説ク  
若シ兩人ノモノ勸解届カサル時ハ其届カサ  
ル旨ヲ呼出状ニ記載ス  
勸解呼出ノ節欠席スルトモ治安裁判官ニテ  
欠席裁判ヲナス「フ」能ハス只欠席シタル旨ヲ  
其治安裁判所ノ呼出状ニ記入ス  
然レモソノ欠席ノモノヘハ治安裁判官ニテ



十「フ」ラシクノ罰金ヲ申渡スノ權アリ  
ソノ罰金ヲ納ムルニハ八日ノ期アリ  
双方ノ中一方ノ者勸解ニ欠席シテ罰金ヲ払  
ハサル道ハ縣裁判所ニ訴訟ヲナス「ト」ヨ許サ  
ス第「五」十六條見合

原告人ニテ欠席スレハ「十」フ「ラ」シク「ト」出シタ  
ル上ニアラサレハ訴訟ヲナス得ス又被告人  
ニテ欠席シテ罰金ヲ拂ハサレハ欠席裁判ト  
ナルト

右拂「フ」タル証ハ代唇人ヲ雇ヒ得ルナリ  
ソノ勸解ニ付テノ書付ノ寫ヲ送ルニ「エ」ハ拂「フ」  
タル「ト」モ分カルナリ

司法省



第七号

訴訟法會議筆記

司法部



五月十五日會議

第六十五條 ソノ呼出状ト共ニ勸解ヲナシ得  
サル事ノ調卷ノ寫又ハ勸解ニ出席セサル事ヲ  
記シタル卷ノ寫ヲ送達スベシ若シ之レヲ送達  
セサル時ハソノ呼出状ノ効ナカルベシ○又呼  
出状ト共ニ訴訟ヲナスノ憑拠タル証卷ノ全部  
又ハ一部ノ寫ヲ送ルベシ但シ此等ノ寫ヲ呼出  
状ト共ニ送達セサル時ハ後ニ吟味ノ時原告人  
其寫ヲ送ルコトアリト 虽モソノ寫ノ費用ヲ裁  
判費用中ニ加フベカラズ

訴訟セントスルニハ先ツ必ス勸解スベキナ  
リナリ勸解調フ中ハ訴訟トナラズシテ済ムナ  
リ元來勸解スヘキトト勸解スベカラサルト  
司法省

トノ別アリ勸解ノ調ハサルト又ハ欠席シタ  
ルトアレハソノ旨ヲ証卷ニ認メ原告人ニ渡  
ス訴訟ノ片ハ使吏ソノ証卷ヲ呼出状ニ添ヘ  
テ被告人ヲ呼出ス  
其呼出状ニハ勸解ヲ許シアルトヨリ卷クニ及  
ハス又勸解ノ出来サルトヨリ記スルニ及ハス  
勸解ニ及ハサルモノハ記シ置ストモ其吏柄  
ニテ分明ナレハナリ  
勸解スヘキモノト 虽モ急ナル中ハ勸解ヲ受  
ケスソノ俟訴へ出ルナリ其時ハ勸解ヲ受ケ  
サル旨ヲ記ス但シ此時ニ限リソノ旨ヲ記入  
スルナリ  
幼年ノト身分ノトハ過日説キタルカ如シ



至急ノ一ハ勸解ヲナサス然レモ裁判官ニ於  
テ至急ナラスト見込ム時ハソノ呼出状ヲ効  
ナシトス其時ハ被告人出ルトモ之レヲ歸ヘ  
シテ更ニ勸解セシムルナリ  
以時ニ當ツテハ其呼出ニ被告人出席セスト  
虽レ元ト勸解ノ順序ヲ經サルニヨリ原告人  
ノ過チナルユヘ其呼出状ノ費用ハ原告人之  
レヲ擔當スルナリ  
其時迄ハ代唇人未タ手ヲ付クルナキニ付  
ソノ費用ナキナリ  
使吏呼出ニ行ク旅費ハ前ニ説ク如ク一日二  
十「フラン」クノ費用ヲ払フナリ  
原告人ハ被告人三人以上アリトシテ呼出タ

司法省

ル時ソノ中ノ一人ハ訴訟ニ関セサルナラ  
ンニハ被告人二人トナルユヘ勸解セシムル  
ナリソノ時ハ前ニ同シク費用ハ原告人ニテ  
辨スルナリ

右ハ實地ニハ少キナレトモ決シテナシト  
セス

此一説ハ教師今考ヘ出ス所ト云フ  
三人以上以下ト區別ヲ立テタルハ原告人我  
カ志願ヲ急クユヘワサト被告人ヲ増シ三人  
以上トシテ勸解ヲナサハル等ノ弊アルユヘ  
之レヲ防ク為メニ此等ノ処ハ嚴ニソノ區別  
ヲ立テタルナリ若シ右場合ニテ呼出状ヲ出  
シタリトモ其呼出状ハ効ナキモノトス



第六十一條ニ載スル証拠モノ、寫ヲ送ルヘシ  
以書付ヲ添ヘ呼出スル原則ナレモ若シ其寫  
ヲ添ヘストモソノ呼出状ハ廢物トナルニア  
ラス其眷類ノ寫ハ後ヨリ裁判所ニ出スモ妨  
ケナケレ共費用ハ原告人ニテ之レヲ拂フナ  
リ

前條呼出状ニハ証拠ヲ節略シテ書載スル  
ヲ云ヒ此條ニハソノ寫ヲ添フルヲ云フナ  
リ  
第六十六條 使吏ハ總テ自己ノ宗系ノ血屬又  
ハ姻屬ノ親及ヒソノ婦ノ宗系ノ血屬及ヒ姻屬  
ノ親ノ為メニ呼出状ヲ送達スベカラス又其再

司法省

從兄弟以上ナル自己ノ傍係ノ血屬及ヒ姻屬ノ  
親ノ為メ呼出状ヲ送達スヘカラス若シ此規則  
ニ背ク時ハ其呼出状ノ効ナカルベシ

使吏ハ誓ヲ立テタル官吏ナレ共親族等ノ嫌  
疑ヲ避サルヘカラス故ニ親族ノ為メニ呼出  
状ヲ取扱フヘカラス

タトヘハ親族原告人ニテ被告人へ呼出状ヲ  
送達セシムルニ使吏故テ之レヲ被告人ニ  
送達セス因テ欠席裁判トナリ遂ニ故障申立  
又ハ控訴ノ期限ヲ過キタル迄被告人ニテ知  
ラサル等ニテ大ニ其迷惑トナルヲアルユヘ  
之レヲ禁ジタルナリ

此条中血屬姻屬ノ下ハ別系圖アリ此儀ハ別



ニ説クベシ

以條ニ利トナル方ヲ禁シテ害トナル方ヲ禁  
セス先ツ其區別ヲ説カンニ其害ニナルコトハ  
タトヘハ使吏ニテ物件ヲ取上ル裁判ニ付其  
書付モ其規則ニ合ハセス又取上ケモセス然  
ル時ハ親族ノ為メヲ量リテ却テ害トナル何  
トナレハ終ニツノ為メニ親族ノ罪ヲ釀スノ  
ミナラス自カラ罪ヲ得ルナリ故ニ之レヲ禁  
セサルナリ又害トナルコト云ハ、使吏ノ父  
ヘ他人ヨリカ、ル訴訟アル時ノ呼出状ヲ  
父ヘハ必ラス送達スヘシ  
若シ之ヲ送達セサレハ又席裁判トナリテ父  
ノ負トナル故ニ必ラス送達スルナリ

司法省

故ニ親族ノ被告人ナル時ハ禁セサルナリ畢  
竟利ニナル方ハ之レヲ禁シ害ニナル方ハ差  
支ナキエヘ之レヲ禁セス  
自己ノ宗系血屬トアリテ其分界ヲ立テス上  
ハ祖々宗々ニ至リ下ハ子孫々マテヲ含ニテ  
云フナリ  
姻屬ノ宗系ト云フモ即チ前條ノ如ク上下ニ  
通シテ云フ  
上ノ自己ノ宗系ノ血屬又ハ姻屬ノ親中ニハ  
婦ノ宗系ノ血屬ヲ含ム下ノ姻屬ノ親トハ夫  
ノ親屬ニアラス婦ノミノ姻屬ナリタトヘハ  
一度嫁シタル婦ハ舅姑アルヘシ右ヲ引取リ  
タラハ自己ニハ關係ナシト虽モ婦ニハ關係



アリ

婦ヲ離縁スレハソノ姻屬ニ關係ナシト虽モ其子ノ跡ニ残リタル中ハ關係アリ

一旦離縁スレハ其縁断ユレモ子アルトキハ其縁断セス之レソノ關係アル所以ナリ

ソノ子ノ祖父アリソノ祖父ニテ自己へ呼出状ノ一ヲ頼ミタル時ハ直ニ拒クヲ能ハス愛情ノ起ルハ必定ナリ其愛情ヲ以テ取扱フ時

ハ必ラス私アルヘシ故ニ之レヲ禁スルナリ若シ其子ナキ時ハ姻屬ナシ使吏ニ於テ嫌ヒ

ナシ

本文ヨ自己ノ宗系血屬又ハ姻屬宗系ノ親及ト其婦姻屬宗系ノ親親親ノ前婚婚ノ前ト各々ハ分

司法省

明ナリ

再從兄弟以上ハ夫婦双方ヲ兼ネテ云フ

傍系ノ血屬トハ伯叔父母以上ナリ姻屬ノ親トハ傍系ニ就テ云フ

前文ニハ婦ノ姻屬トアリ自己ノ傍系ノ血屬云々ノ所ニハ婦ノ姻屬ヲ説カス婦ニ姻屬ノ

親アリト虽モソレ等ハ法律ニ載セス妻ノ前婚ノ傍係ニハ嫌ナケレハナリ

子アルトモ子ノ伯叔ノ一ハ差支ナシ再從兄弟ヲ六級ノ親屬ト云以再從兄弟ノ中

ニ異父母兄弟算入セス全ク同父母兄弟ヨリ成リタルモノノミヲ云フ然ラハ異父母兄弟

ニハ送達スルモ可ナリト云フカ如シ法律ノ



欠ナリ既ニ法律ニ禁セサルニ於テハ異父母  
兄弟ノ為メニ送達スルトモワノ効アル者ト  
ス然レモ異父兄弟ハ婦ノ血属即チ自己ノ姻  
属ノ親ヨリモ其情ニ於テ甚々密ナリ嫌ナキ  
能ハス此ニ之レヲ禁スルヲ補フベシ  
然レモ佛ニテハ右ノ嫌ヲ避ケスシテ送達ス  
ルコトナキ為メ裁判所ニテ別ニ其取締法ヲ  
設ケタリ

此等ノ片ハ裁判所ニテソノ罰ヲ加ヘ甚シキ  
ニ至リテハ二ヶ月ノ停職アリ又自分ノ為メ  
ニスルコトソノ毒ノ為メニスルコトハ又此  
條ニナキナリ元ヨリ自己ノ訴訟ヲ自カラ書  
クテハナキ筈ナレトモ法律ニ禁セサルニ於

司法省

テハ差支ナキカ如シト虽モ既ニ親族姻属ノ  
為メニサヘ禁アルヲナレハ自己ハ勿論ナリ  
若シ右等ノヲナシタル片ハ譴責ハ申スニ  
及ハス餘程重キヲニナルニハ此條ニハ輕キ  
ヲ挙テ重キ云ハスト見做シテ可ナリ  
日本ニテ法律ヲ立ツルニハ自分ノ為メニス  
ルヲ毒ノ為メニスルヲ異父母兄弟ノ為メニ  
スルヲ分明記入スヘシ  
此等ノ法律ノ所欠ハ佛國ニテ改革スヘキニ  
屢々國乱アルヲ以テソノ改革ニ進ナクソノ  
終ニテアルナリ

國議院ニテ回来コヲド改正ノ議論アリ然ル  
ニ千八百七十年ノ乱ニテソノ更終ニ廢シタ



リ其後巴里ノ変ニ國議院ノ草案等悉ク兵火ニ罹リタリ実ニ惜ムヘシ

第六十七条 使吏ハ呼出状ノ正本及ヒ副本ノ末ニソノ謝金ノ高ヲ記入スベシ若シ之レヲ記セサル時ハ後ニソノ呼出状ヲ官署ノ簿冊ニ登記スル時五フランクノ罰金ヲ出スベシ  
呼出状ノ價ヲ昏クベシ昏カストモソノ價ヲ取ラサルニモアラス効ナキニモアラス唯五フランクノ罰金ヲ出スノミ此條ハ餘リ大切ナル條ニアラスソノ謝金ヲ貪ホルト宿弊ナルニ因テ之レヲ拒ク為メニ置キタルナレト別ニ謝金目錄表アリテソノ價ヲ増減スル規則アレハ此條終ニ無用ニ歸ス

司法省

第六十八条 呼出状ハ被告人ニ之レヲ渡シ又ハ其住所ニ之レヲ渡スベシ然レ被告人ノ住所ニ其被告人及ヒソノ親族従者ノ共ニアラサル時ハ使吏ソノ呼出状ノ副本ヲ近隣ノ者ニ渡し近隣ノ者ソノ正本ニソノ姓名ヲ手署スヘシ若シソノ近隣ノ者姓名ヲ手署スルト得ス又ハ手署スルトヲ欲セサル時ハ使吏ソノ副本ヲソノ邑長又ハソノ輔佐役ニ渡し此等ノ者謝金ヲ得スシテ正本ニ捺印ヲ為スベシ  
使吏ハソノ正本及ヒ副本ニ此等ノ諸吏ヲ附記スベシ

此條已ニ前ニ説ケリ故ニ此ニ贅セス  
第六十九条 前数条ニハ各人民ヲ呼出スルヲ



解ク

此條以下ハ全ク別ナリ第一項ヨリ第六項マ  
テハ無形ノ人ト見做スナリ

第一官府ヲ其土地ノ支配ニ管シタル訴訟ニ付キ  
呼出ス時ハソノ訴訟ヲ審判スベキ裁判所ニ在  
ノ地ノ州長又ハソノ住所ニ呼出状ヲ送達スベ  
シ

官ハ無形ノ人ニテソノ所有物アリテ被告人  
ニナルトコトヲ説キタリ行政ノ事件ニ関シタル  
トニアラス即チ官ヲ一人ト見做シ民事ノ裁  
判トナル

官ノ所有ニカ、ルモノハ民事裁判

若シ官ニテ人民ノ私地ヲ取込ム時ハソノ害

司法省

ヲ受タルモノヨリ訴出テ民事裁判トナル

又官ノ山林等ヲ買ヒタルニ間違アリ又ハソ  
ノ土地家産貸借ノトニ付テノ訴ハ民事裁判  
又一ツノ大切ノ例アリ日本ニテモ國債アリ  
佛ニテモ又大國債アリ此等ハ人民一般ノ金  
ヲ借ルト同一ナリ此等ハ政府ト虽モ別コ立  
テス一般人民ト看做シソノ訴ハ民事裁判ト  
ナル

以上皆民事裁判ニナルモノヲ云フ

以下行政ニ出ル分ヲ云ハシ

政府ト人民ト関係ノ時政府ノ權ヲ以裁判セ  
サルベカラサルコトハ行政裁判ニ歸ス

タトヘハ租税ノトニ付其出スヘキ高ハ行政



官ニテ法律ヲ以テ定ムレモ其各人民ニ取立  
ルコトハ各地方ノ行政ニテ定ムルコトナリ  
毎年翌年ノ不動産税ハ何程ト定ムタトヘハ  
其高百万トスレハ之ヲ八十六縣ニ科シ一縣  
ニテ何程ト定ム  
尤州ニ貧富大小アレハソノ相当ヲ以テ割合  
ヲ定ム州又之レヲ郡アノチヤウニ割付又之レヲ邑イニ割  
付一邑ノ高ヲ定ム  
ソレヨリ邑會議院之レヲ一人ニ割付ル  
ナリ其人々割付ニ付テハソノモノ所持ノ土  
地廣狹產物宅地空地等ヲ表ニヨリ検査シソ  
ノ税ノ科スルナリ  
右表ハ行政官ニテ製ス其表ニハ不適當ノコ  
ト

司法省

アリテ餘分ニ税ヲ払フコトアル時之ヲ訴フル  
如キハ即チ行政裁判ニ歸スルナリ  
日本ニテ云ハ、  
天皇陛下ソノ高ヲ定ムルヨリソノ各人ニ割  
付ルニ至ルマテ行政上ニテ取極ムルコトナレ  
ハナリ  
此等ノコトヲ若シ民支配裁判ニテ取揚クル中ハ  
コニアリト権限ノ争ヒトナル  
三世ナホレホンチ八百五十二年ニ大統領ト  
ナル中ハ前主オリアン家ノ財産ヲ取揚ケ  
ニト布告シタリ此オリアン家ノ財産ハ仙  
國ノ物ナリ然ルニソノオリアン家ノ子孫  
ヨリ右ノコトヲ布告直シニナシテモライ度旨



民事裁判ニ訴ヘタリ之レヲ民事裁判ニ取揚  
ケタルヲ以テ巴里ノ縣令ヨリ故障申立タル  
故民事裁判ニテ之レヲ拒ムルハ権限ノ争ヒ  
トナルニ付之レヲ行政裁判ニ歸シタリ然ル  
ニ右ノ訴訟ハ布告ノ通リト裁判ニナリタリ  
オトリリアン家ノ訴ハ効ナシトナレリ  
昨年ナホレヤン三世ノ甥ナルモノ仏ニ歸ラ  
ントスルヲ警視廳ノ手ニテ留メタルニ付人  
民ノ權利ヲ妨ケタリトテ警視廳ニ對シ民事  
裁判所ヘ訴ヘタリ  
此時ニハ民事裁判ニテ取揚レハ権限ノ争ヒ  
アルト見タル故此訴ヲ斷ハリタリソノ時ノ  
言ニ一政府斃レテ一政府立ツ時ハ新政府ノ

司法省

為メ人民ヲ保護セサルベカラスト云テソノ  
訴ヲ取上サルナリ  
タトヘハ教育ノ官アリ不教ノ官ナラサレハ  
場合ニヨリ免職セラル、マアリソノ場合ニ  
ヨラスニテ免職セラル、時ハ何故ニ免職セ  
ラル、ヤト訴フルマアリ此訴訟ハ行政裁判  
ニ訴フ  
タトヘハ文部卿ハ自分教師ヲ免職スルノ權アリ  
然レ共自分ニハ故障ヲ訴フルノ權アリ  
自分奉職中休暇ヲ得テ日本ニ来リ居ルニ仏  
ノ文部省ニテ免職スル中ハ自分ニテ必ス之  
レヲ行政裁判ニ訴フナリ  
右權限ノ大主意大段ニツニ分カル官ノ公權



上ニ就テノ訴訟ハ行政裁判ナリ  
官ノ私權上ニ就テノ訴訟ハ民事裁判ナリ

司法省



第八号

诉讼法令彙集记

司法部



五月十五日會議

第六十九條 第一項ノ續キ

官ニハ必ラス所有物アリソノ支配ニ付テノ訴訟ハ一般ノ法ニ循ヒ民事裁判ニ歸ス  
官ノ所有物ニ於テ不動産ナレハ物件所在ノ地ノ裁判官ノ權ニテ処分ス  
右ノ場合ニ於テ官府原告ニテ人權ナルハ被告人所在ノ裁判所ヘ訴フナリ  
若シ官府人權ノ付ニ付被告人トナルハ何レノ裁判所ヘ訴フヘキトハ法律上ニ云ハスト  
ト虽ニ呼出状ヲ何レノ所ヘ送達スルト云フ  
トハ法律ニコレアリ  
第一項ニ云フ如ク官ノ所有物ニ付テノ訴訟

司法省

ハ州長又ハ州長ノ住所ヘ送達スルトアリ一  
体官府ノ所有スル山林田地等ニ必ス管理人  
アリ故ニ此管理人ニテ此訟ヲ引請クヘキカ  
如シト虽ニ州長ハ一州ノ惣代ニシテ聰明ナ  
リ且其管轄地ノ支配權アルヲ以テ訴訟ヲ防  
クニハ管理人ヨリ州長ハ季ニキユヘ州長ヲ  
呼出スナリ

タトヘハ神奈川縣中ニ製鐵場アリ鑛山アリ  
工部省ニ屬スルモノト虽ニ工部省ハ惣テ製  
鐵ニテモ鑛山ニテモ其業ヲ盛大ニスル責ア  
ルモノニシテ其土地ハ即チ政府ノモノナレ  
ハ大藏省ノ管轄ナリ因テ工部省ヲ呼ヒ出タ  
サスニテ縣令ヲ呼ヒ出スナリソノ時ハ縣令



ハ政府ノ名代人トナルナリ  
何故ニ縣令ヲ政府ノ名代トナスト云ハ、  
大藏卿ハ全国ノ地ヲ管スルヲナレト一人ニ  
テ自身一々之レニ忒接スルヲ能ハサルユヘ  
ソノ地ノ情態ヲ熟知スル縣令ヲ以テ名代人  
トナスナリ

タトヘハ神奈川ニアル鑛山ニテ人民ノ所有  
地ヘ侵入シタル時ハ鑛山寮出張ノ官吏ヲ呼  
ヒ出スヘキカ如シ然ルニ縣令ヲ呼ヒ出スハ  
不相当ニ見ユレト否ラス尤モ事ニヨリ鑛山  
寮ノ官吏自ラソノ規則ヲ侵シタル時ハ直チ  
ニ寮ノ官吏ヲ呼ヒ出スヲアレト鑛業ニテ人  
民ノ所有物ニ侵入セシ時ハ必ラス縣令ヲ呼

司法省

出スナリ元ヨリ寮ノ官吏ハ土地ノ一ニ付テ  
ハソノ訴ヲ防クノ權ナクシテ縣令ハ土地所  
有ノ名代人ナレハナリ

縣令ハ政府ノ代人トハ云ヘト分別スレハ即  
チ大藏卿ノ代人トナル訴ナリ

第二 官府會計局ヲ訴訟ノ吏ニ付キ呼出スハ  
ハ其官吏又ハソノ官署ニ呼出状ヲ送達スベシ  
右ハ人權ニ関スルトニテタトヘハ會計官吏  
ニテ人民ヨリ金ヲ借ルヲアリ右ニ付訴訟起  
ル中ハ人民相互ノ訴訟ト同一ニ歸スル故ソ  
ノ會計局ニ呼出状ヲ送達スルナリソノ借金  
ハ官ノ借用ニ相違ナケレト官ノ公權ヲ以テ  
借りタルニアラス畢竟會計局ノ私借ナリ故



民事裁判トナルソノ時ハ大藏卿ヲ呼出ス  
コトナレモソノ名代ニ會計局ヲ呼ヒ出スナ  
リ  
又タトヘハ金ヲハシクヘ預ル如ク人民ヨリ  
官署ヘ預ケルコトアリ尤モ利金モアルナリ此  
等ノコトニ付訴訟トナルハ人民ヨリ官署ヲ  
相手取ルコトアリ  
又政府ニ関スル新聞紙又ハ公証人等ハ保証  
金ヲ出シ置クニソノ業ヲ罷メル時ハソノ金  
ヲ政府ヨリ返スヘキニ猶之レヲ返サ、ルハ  
ハ訴訟トナルナリ  
ソノ時ニハ政府ハ政府ナレトモ金ノ預リ人  
ト云フモノナリ故ニ一般人民ノ訴訟ト同シ

司法省

凡政府ニテ公ケノ權ヲ以テ取扱フタル金ニ  
於テハ民事裁判ノ權外ナリ  
タトヘハ官吏ノ私ノ疎忽ニテ出仕セサル等  
ノコトニテ月給ヲ引クトキソノ官吏ヨリ苦情  
ヲ訴フルモノハ民事裁判ノ權ニアラス即チ  
行政裁判ノ權ニアリ  
又タトヘハ官府ニテ人民ヨリ金ヲ借ルトキ  
ハ官府ノ權ニテ借ルニアラス官府ニテ人民  
トナリテ人民ヨリ借ル理ナリ即チ國債等之  
レナリ  
又タトヘハ陸軍ニテ軍器ヲ注文スルニソノ  
軍器ニ付テノ訴訟ハ行政裁判ノ權ナリ  
ソノ節ハ注文シタル省ノ卿自カラソノ器械



師ヲ呼ビ出タシ且ツ自カラ裁判スルナリ  
國債ニ付キ争ノ起リタルトキハ即チ本條  
ニ入ルナリ

尤モ右ノ場合ニ於テ争ノ起ルハ絶テナシ  
近年ノ戰ニ國債証券ヲ失ヒタルモノ澤山ア  
リソノ時ニ更ニ訟扨ヲ請取ルテ會計官ヘ  
乞フモノアリソノ節右ヲ取調ヘテ渡スベキ  
ニ之レヲ拒ム所之レヲ訴フ如キハ即チ民吏  
裁判ニ入ル

タトヘハ陸軍卿ヨリ軍器ヲ注文シタルニ其  
器械遲延シテ未タ出来サル内ニ最早軍モ果  
タリ因テ其事ニ後レタルヲ以テ軍器ノ價ヲ  
引ケト云フ所ニ争ノ起ルモノハ私吏ニアラ

司法省

ス公權ナリ故ニ行政裁判トナル

右ノ如ク軍器ノ粗悪又ハ出軍ノ跡等ニテソ  
ノ價ヲ渡サ、ル時訴ノ起リタルトキハ民吏  
裁判官ニテソノ争ヲ審理スルノ理ナシ即チ  
陸軍卿ニテ裁判ス

右人民ノ為メニ軍ヲ起スハ政府職務上ノ公  
權ナルニ其用ヲ勤ムルモノソノ事ニ怠リ或  
ハ其物ヲ粗悪ニスルハ之レカ為メ不都合ヲ  
生スルニ至リ政府人民ニ対シ其義務ヲ欠ク  
所以ノ理ヨリ起ルナリ

國債ヲナスニ於テソノ人民ヨシテ損害ノ受  
ケサラシメント欲スルカ為メニ政府ノ權ヲ  
以テセス一般人民トナリテ借ルナリ



佛ニテモ行政ノトニ付テハ自カラ注文シテ  
ソノ争ヲ起シ自カラ之レヲ裁判スルハ不都  
合トノ論アリ故ニ政府外ニ別ニ行政裁判所  
ヲ置キ通常裁判官ノ如ク不殺ノ權ヲ與ヘタ  
ル裁判官ヲ設ケント云フ説アレモ未タ行ハ  
レハ

本文ニカヘリテ云フ

官吏ニテ金ヲ借ルニ人民一般ノ如クスルハ  
少シク不相当ナルカ如キモノナレモ左ニア  
ラスコ、ニ陸軍省ノ注文ヲ受ケタル軍器ヲ  
同省へ納メ陸軍卿ノ檢印アル証書ヲ以テ金  
ヲ請取ラントスルニ會計官吏ニテ金ナシト  
云テ渡サ、ル中ハ如何スベキヤ即チ

司法省

右ノ注文品ハ既ニ檢査済ミニテ納マリタル  
モノナレハ即チ民吏裁判トナルナリ

器械ノ美惡ト出来ノ遲速トハ行政裁判ナ  
リ

既ニソノ品ヲ受取リテ金ヲ渡サ、ル中ニ至  
テハ民吏裁判ナリ

此條ニ於テ法律上ニ付キ議論スヘキコトアレ  
モ佛ニテ此條ヲ存スル間ハソノ立テ置ク処  
ノ理ヲ辨明セサベカラス

第三 官署又ハ公舎ヲ訴訟ニ付キ呼出ス時ハ  
其本局ニ呼出状ヲ送達シソノ他ニ於テハソノ  
委員又ハ其官署ニ送達スベシ

公ケノ建造物ヲ云フ病院狂院又ハ養育院質



屋等ノ如キ官ヨリ監察ヲナスモノアリ  
官署ト云フモ公舎ト云フモ同シク公ケノ建  
造物ヲ云フ諸省等ノ如キハ此中ニハ入ラス  
右ハ全ク人民ヨリ釀金ニテ出タルモノナレ  
バ政府ヨリ監察ヲナスニハ公ケノ建造物ト  
云フ寺ハ邑ノ持チニハ此内ニ入ラズ  
ソノ建物ハ私有物ナレバソノ支配ヲナスモ  
ソノ官ヨリ命スルナリ此公ノ宰安ナラス  
ソノ附屬ノ官員ノ月給ハ此建物ノ揚リ高ヨ  
リ出ス  
此建物ヲ建ルニモ閉ルニモ政府ノ免許ナカ  
ルヘカラス尤モ地方官ニテ免許ス此會計モ  
官ニテ検査スルナリ

司法省

此本局ハ首府ニアリ支局ハ縣ニアリソノ中  
ハ本局ハ本局ノ地支局ハ支局ノ地ニ呼ビ出  
スナリ

第四 皇帝ヲソノ私領ノ吏ニ付キ呼出ス時ハ  
裁判所管轄地内ニ在ル検査ニソノ呼出状ヲ送  
達スベシ

佛ニテハ長ク王ニテ後皇帝トナリ今ハ大統  
領トナリタリ大統領ニ対シテハ此條ハ用井  
古ヨリ言傳ヘニモ王ニ対シ訴ヲナスコトヲ得  
スト故ニ検査ヲ呼出スナリ此訴訟法ヲ作り  
タルトキハ檢事ヲ王ノ名代ト立テタリ故ニ  
此ノ如シソノ後千八百三十二年ニ至リ全ク



王ノ所有物ヲ管轄スル官吏出来タリ民吏目録官吏  
ト云フノ後ハ此官吏ヲ呼出スコトトナリタ  
リ

一 体檢吏ヲ王ノ名代ト云フハ間違ヒナリ一  
般人民ノ名代ナリ

故ニ千八百三十二年ノ時ニ至リ民吏目録官  
吏アトミニト云フハ所ルテリニトシビ王  
ノ名代ヲ呼出シツノ後千八百五十二年ニ至リ  
モ同シ決シテ王ヲ呼ヒ出スナリ

千八百四十八年千八百七十二年トモ大統領  
ニ對シテノ法律ハ別ニ設ケサリシ

第五 邑ヲ呼出ス時ハ邑長又ハツノ住所ニ呼  
出状ヲ送達シ巴勒ニ於テハ州長又ハ其住所ニ

司法省

ニ之レヲ送達ス可シ

邑ノ一ヲ説ク前ニ先ツ説クナリ千八百六  
年訴訟法ヲ編成スルマテハ縣ハ只土地ノ分  
界マテニテ縣ヲ無形ノ人ト見做スナリ之レ  
ナシ故ニ縣ノ一ハ此ノ法律ニ載セサリシ今  
日ニ至リテハ縣ヲ無形ノ人ト見做スナリ  
リタリ故ニ縣令ヲ呼出スナリナリ  
縣令ハ縣ノ名代人ナリ又政府ノ名代人ナリ  
故ニ人民ヨリ政府ヲ相手取ルルハ縣令ハ政  
府ノ名代人トナル又縣ヨリ政府ヲ相手取ル  
時ハ縣令一人ニテ縣ト政府トノ名代人トナ  
ルヲ能ハス故ニ縣令ハ政府ノ名代トナリ縣  
ノ名代人ハ縣會議院中ヨリ撰ミ出ス



右ノ名代人ヲ撰マサル間ハ縣會議院ノ長之  
レヲナス

邑ニ所有物アリ右ニ付キ訴アルハ邑長ニ  
テ邑ノ名代人トナル

邑ヨリ縣ヲ相手取ルハ縣令ハ縣ノ名代人  
トナリ邑長ハ邑ノ名代人トナル縣ヨリ邑ヲ  
相手取ルハ亦同シ尤モ此例ニアラサルモノ  
アリ「巴里」リヨシ之レナリ

巴里ハニナアルロシカスマニアリ一アルロ  
シカスマニ毎ニ長アリ右ノ如ク数人アルユ  
ヘニ縣令ヲ相手取ルナリリヨシ「巴里」下同シ  
キユヘ縣令ヲ相手取ルナリ  
右ニ付テ少シク面倒ナルトアリ若シ縣ヨリ

司法省

巴里府ヲ相手取ルトキ縣令一人ニテ縣ト巴  
里府トノ名代人トナルト出来サルナリ

巴里ノ規則ハ人民ヨリ巴里ノ相手取ルトキ  
ハ縣令之レニ代ルソノ時ハ邑長ノ仕度モ一  
人ニテ兼ヌルヲ能ハズ

ソノ時ハ権力アル方ニ依テ縣ノ名代人トナ  
リ邑ノ方ハ邑會議院ヨリ名代人ヲ撰ムナリ  
千八百四十八年マテハ巴里ノ縣令ヲ稱シテ  
「バールサン」カラ「ル」即ハ「魁ト云フ今ハ否ラ  
ス

ソノ所以ハ縣令ハ巴里ノ邑會議院ニ上席セ  
ス別ニソノ上席人ヲ扱ムトニナリタリ故ニ  
ソノ名ナシ



巴里ヲ以クノ如ク區分スルハ一人ノメー  
ニテ廣キ首府ヲ惣轄スレハ人民ノ不便利ヲ  
生スレハナリタトヘハ婚姻死去ノ届等ヲナ  
スニモ遠隔ノ地マテ往來セサルヘカラス故  
ニ便利ノ為メニ數區ニ分チタルナリ



第九編

拓私法會議筆記

司法部



五月二十日會議

第六十九條 第五ノ第二項

此五箇ノ場合ニ於テハ呼出狀ノ副本ヲ受取りタル者ソノ正本ニ檢印スベシ若シ之レヲ受取ルベキ者ソノ所ニ在ラス又ハソノ所ニ在リト雖モ檢印ヲナスコトヲ肯セサル時ハ治安裁判所ノ裁判役又ハ初告裁判所ソノ檢印ヲナシテソノ呼出狀ノ副本ヲ受取ルベシ

本條以上ノ五項ハ總テ無形人ニ対スルモノヲ云フ右ハ人ニ対スル呼出狀ト違ヒ政府ヲ呼出ストキニ於テハ官吏ノ身ニ切實ナラサルコトニ怠リ勝手ナリ故ニ官吏ノ身ニ深ミ忘レサル為メニ檢印セシムルナリ前ニ説キタ

司法省

ル本人並ニ一家不在ノ時近隣ニ送達シ檢印セシムルハ使吏ヲ疑フニハアラス請取リタルモノ、等閑ニセサル為メナリ

民法ノ講義ニ於テ義務ノ生スル五根元ヲ説キタリ此條ハ五根元中契約ノ部ニ屬ス即チ代理ヲナスノ契約ナレハナリ

第一ハ縣令

第二ハ官吏

第三ハ公舎等ノ支配人

第四ハ皇帝ノ私有物支配

第五ハ邑長等

右等ハ總テソノ職ニ任シタル節既ニ代理ヲ為スノ契約ヲ生シタルモノトス



若シ右等ノ官吏ニテ請取ルヲ欲セス又ハ不在ノ時ハ治安裁判所ノ裁判官又ハ被告裁判所ノ檢査ニテ請取リ檢印ヲナスナリ其官吏等ニテ拒ムトハ甚々稀レナリ然レモ時ニヨリソノ呼出状ヲ見テ州邑等ノ官吏ニテ此レハ他ニカ、ルトニ付キ請取ラスト故障ヲ述ル時ハ使吏ニテハソノ当否ヲ弁別スルヲ能ハサルニハ裁判官又ハ檢査ヘ渡スナリ

官ノ公權ヲ以テ長官ヨリ品物ノ注文等ヲ申付ルヲアリソノ更件ニ付呼出状ヲ會計局ノ官吏ヘ送達スルニ右官吏ニ於テ我レハ此更ヲ知ラスソノ省ノ長官ヲ呼出スヘシト云フ

司法省

トキハ使吏ニテ呼出状ヲ送達スルコト前ニ同シ

呼出状ヲ檢査又ハ治安裁判官ニテ夫レ々々ヘ送達シタルトハ拒ムト能ハス故障アレハ裁判所ヘ出テ述ヘサルベカラス方一ソノ片ニモ日限中ニ裁判所ヘ出サレハ欠席裁判トナリテ邑長ナレハ一邑ノ責メヲ一身ニ受クルナリ

檢査又ハ治安裁判官ヘ渡ストト定メタルハ使吏ノ便利ノ為メナリソノ送達スベキ距離ニ於テ「カント」ナレハ治安裁判官ノ方近シ巴里等ニテハ檢査ノ方近シ何レニテモ其便利ノ方ニ渡シテ然ルナリ



治安裁判官ニテハ必ラス請取ルナリ何トナ  
レハ官禄アリ不抜ノ權ナシ故ニ拒ムトテ得  
サルノ情態アルナリ邑長ハ官禄ナシ故ニ自  
由ニ議論スルトテ得ル

第六 商社ヲ其社ヲ結ビタル時間呼出ス時ハ  
ソノ商社ノ家ニ呼出状ヲ送達スヘシ又既ニ商  
社ヲ解キタル後ハソノ社中ノ者又ハ其住所ニ  
之レヲ送達スベシ

商社モ亦無形人ナリ

商社ヲ結ビソノ社ノ存在スル間ハソノ商社  
ノ會所ニ送達スベシ若シ定マリタル商社ノ  
會所ナキハソノ社中ノ人又ハ其人ノ住所  
ニ送達スベシト云フコトナリ

### 司法省

商社ヲ解キタルトキノハ書テ無之俟シ惣  
會計ノ仕場ケノ濟迄ハ即チ此條ニ循フナリ  
商社ノ會所ノナキト云フコトヲ説カン

タトヘハ肥前ノ陶器ヲ東京ニ出シ賣ラント  
數人約束シテ運輸スルモノアリ肥前ニモソ  
ノ會所ナク東京ニモソノ會所ナシ俟シ數人  
約束シテ商ヲナストキハ即チ其社ハ有ルナ  
リ

商社ヲ立ツルトハ社ノ為メニスルニアラス  
一般ノ人ノ為メニスルナリ然ルニソノ社ヲ  
解キタルトキ一人ニヨリ勘定ヲ取ルトニテ  
ハ甚々債主ノ迷惑ナリ故ニ惣勘定ノ濟ムマ  
テハ法律上ニ於テ其社ヲ解カサルモノト見



做シテツノ社ヨリ勘定ヲ取ル様ニ定メタル  
ナリ

右ノ譯ニ於テハ裁判ノ都合ノ為メヨリハ人  
民ノ都合ノ為メヨリ童ニスルナリ  
民法九百參

照シ

既ニ會社ヲ結ビ銘々動産不動産ヲ差入レタ  
ルトキハ即チ會社ノ動産不動産ニテ一己ノ  
モノニアラス故ニ其不動産ハ書入レテ一己  
ニ金ヲ借ル事ヲ得ス

會社ニ於テ民更商事ノ別アリ

商社ヲ結フニ既ニ其社ニ持込ミタル動産不  
動産ハ會社ノモノナレトモ民更ハ否テスソ  
ノ所有物ヲ持込ミタリトモ矢張り各自ノモ

司法省

ノナリ

民更商事全ク別ナリ商業會社ハ無形ノ人ト  
看做セトモ民事會社ハ無形ノ人トセス商社  
ニテハ持込ミタリ財産ハ商社ノモノナリ只  
ソノ分前金而已各自ノ利トナル

タトヘハ幼年ノモノ商社ニ入ルニ元來相当  
ノ裁判所ノ允許ナクシテハ幼年ノモノニテ  
不動産ヲ賣ルヲ得スト虽モ商社ニ入りタ  
ル上ハソノ手数ヲ經スレテ賣ルナリ之レハ  
商社ノモノニシテ且動産ト見做セハナリ  
民更ノ社ニ於テハ前文ノモノヲ賣ルヲ能ハ  
ス有形ノ人ナレハナリ

會社へ入レサル財産ハタトヒソノ社分散ス



ルヲアリトモソノ分散中ニハ入ラス既ニ社  
ニ入レタル者ケノモノハソノ分散中ニ入ル  
ナリ

社ニモ種々アリ株金差入會社ニ於テハソノ  
社ニ入レタル金支ケニテ済ム

有名會社ニ於テハ銘々ノ身代ノ有ル者ケ分  
散中ニ入ル

幼年ノモノハ商社ニ入ル權ナシト虽モ其父  
ニ於テ既ニ社ニ入りテ後死去シタル時ハ其

子ソノ相続人トナルニ付テ社中ニ入り居ル  
ナリ元ヨリ幼年ニテ入社スルヲハ出来サル

ナリ  
商社ニ入ルニ銘々差入レタル動産不動産又

司 法 省

ハソノ社ノ金ニテ買得ルモノハ皆其商社ノ

所有ナリ

ソノ義務ハ如何ナルモノト云フ片ハ動ク者

ナリ故ニ自己ノ物トナスハソノ分前金支ケ

ナリ

法律上ニ於テ何故ニ民衆ノ會社ト商業ノ會

社ト如ク區別ヨリ立テタルヤトイハ、ソノ商

社ト取引スルモノニ於テ十分慥ナルモノト

シテ信用セシムル為メニ立テタルモノ故社

外銘々ノ貸シ金アル者ヨリ其社へ撤り取ル

トハ出来サル為メニ為シタルナリ

然レモ民法五百二十九條ニ云フ如クソノ社

ヲ解シトキハ其所有ノ權ハ全ク消滅スルナ



リ

本條ニ基ツキ説ク

會社ノ存續スル迄トナス中ハ銘々ツノ金ヲ  
持チ去ルナリソレカ为メ社金ト私金ト混淆  
シテ社ト引合タルモノ、迷惑トナル故ニ法  
律上ニ於テ惣勘定ノ済ム迄ハ會社ノ存續ス  
ルモノト見做シテ其社ニ呼出状ヲ送達スル  
ナリ

此處ニ付テ議論アリ前文ノ通り會社ニ商  
ト民事トノ別アルハ今之レヲ行フニ商事ノ  
方ニ從ハン欵民事ノ方ニ從ハン欵  
民事ノ會社ニ於テソノ家ヲ立ツルニソノ家  
ハ誰ニ屬スルヤト云ヘハ其社中ノ各人ニ屬

司法省

ス尤モ出金高丈ケツ、屬スルナリ  
故ニ右會社ノ一人ニ於テ分散トナルトキハ  
ソノ高丈ケ即チ分散中ニ入ル

佛國ニ於テ民事ノ會社モ全ク商社ノ如クス  
ベシトノ論アレモ立法官ニテ未タ其論ニ從  
ハス

民事會社ノ不都合ナルトハ社中ノ一人分散

シタルトキハソノ社中ノ關係トナリ迷惑ヲ  
蒙ムルナリ審シキハ會社規

古ヘハ社ヲ無形人ト見做ストヲ知ラス其民  
事商事ノ社ハアリタレモ惣テ有形人ヲ以テ  
取扱ヒタリ然ルニ革命後稍ヤク商社ノミ無

形人トナストヲ論シ出シタリ



農業會社ニ於テ無形人トナサハソノ中ノ一  
人借金スルニ土地ハ其社ノモノニテ勤カス  
トヨ得ス不都合ナルヘシトノ説アレ共無形  
人ノ方都合ヨロシソノ人ノ為メニハ分前金  
丈ケヨ自由ニシテ土地ハ勤カストヨ得サラ  
シムレハナリ



第十号

刑部法金錄序記

司法部



五月二十五日

第六十九條 第六項ノ餘論

此第六項設立宜シカラズ第一句誰レカ防ク  
ト云フヲナシ第二句ハ場所モ人モ分明ナレ  
トモ第一句ハ場所大ク有ツテノ人ヲ言ハ  
ス

凡ソ會所ノアル商社ニハ必ラス支配人ハア  
ルモノナリ故ニソノ支配人ニ渡ス可シト記  
セサルヲ得スソノ會所ノナキ所ハ銘々支配  
人ナリ誰ニ渡シタリトモ苦シカラス前文ニ  
誰レト人ヲ指シテ書サルハ書キ落シナリ故  
ニ又ハ支配人ニト書入ヘシ  
前ニ説キタル如ク使吏途中ニテ被告人へ逢

司法省

タルトキハ途中ニテ渡シテモ宜シト故へ支  
配人ニ途中ニテ渡シテモ宜シトス會所ナレ  
ハ誰レニテモ渡シテ苦シカラス但シ支配人  
ノ宅へハ送達スルヲ得ス

第七 家資分散人ノ連結セシ債主ヲ呼出ス時  
ハ其管理者又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達ス可シ  
此第六第七ハ取分テ商人ニ係ルナリ右ニ付  
キ少シク其分散ノ仕方ヲ談セン

分散トハ拂ヒノ止マリタリト云フ迄ニテ到  
底行キ尽キタリト云フニハアラスソノ譯ハ  
人ニ拂フヲ能ハサルトモ亦人ヨリ取ルモノ  
ナキトハ云フ可カラズ

商人ニテハ高直ニカ、ル義務モアレハ民事



ニカ、ル義務モアリ故ニ其拂ノ差支タル旨  
ヲ裁判所へ自カラ届出ルニ出入帳ノ如キ差  
引ニ届スル書類ヲ一切添テ出ス  
万一右商人ニテ右社分ノ書類ヲ出サ、ル中  
ハ債主ヨリ届出ツ其時ハ過失分散人トナリ  
罪ヲ得ル銘々勝手ニ分散人ト云フコト能ハ  
ス

裁判所ニテソノ差引出人ヲ取調ヘタル上ニ  
テ分散ノ形状アル中ハ其方ハ分散ノ形状ア  
リト言渡ナリ

右分散ノ形状アリテ届出タル上弥分散人ト  
言渡サル、迄ハ自カラ其財産ヲ運用ニテ可  
ナリト虽氏言渡サレタル上ニハ監財人カ立

司法省

テ本人ハ自カラ之レヲ運用スルヲ能ハス  
右ノ分界ニテソノ人ノ権利モ右ノ如違フナ  
リ届出タルヨリ言渡サル、迄ハ凡ソ三日位  
ナリ

監財人ハ分散人ノ為メノミニアラス債主ノ  
為メニモ設ケ在ルナリ

此監財人ハ分散人ト債主トノ間ニアリテ双  
方ノ名代トナルナリ

分散言渡シノ済ミタル上ニ三ツノ事アリソ  
ノ事ハ一二三トツ、ク一モアリ又一又ハ二  
又ハ二三又三ニテ済ム一モアリ

第一ノ一ハ「コンコルタ」ト云ヒテ衆債打寄  
リ相談ノ上約束トナルマテノ一事



右打寄相談ヨナストハ双方ノ為メニナルト  
エヘニ望ムトナリ

右「コンコル如」ハ債主打寄約束ヨナス所以  
勸解ノ如キモノナリ

ソノ打寄ルトキニ分散人ニテ分散ニ至ル次  
第ヲ述フルニ財主ニテ分散人ニ於テ廉恥ア  
ルカ又ハ才能アルカ又ハ拂方人ヨリ得ヘキ  
金額ヨリ多クアルトキハ分散人ヲ引立ル相  
談ヲナス但シ前文ニ及シタルモノ等ノ即ハ  
直チニ分散スルトナリ

又自分不束ナルトナクシテ人ノ為メニ分散  
トナルトアリタトヘハ甲ニ金ヲ借シ置クニ  
甲ヨリ乙ニ金ヲ借シ右乙ニテ分散トナル為

司法省

メニ債主分散トナルトアリソノ時ハ債主ニ  
テ甲ノ立行様ニ世話ヲナシテ遣ルトアリ  
分散トナルトキハ必ラス監財人財産目録ヲ  
作ルヘシソノ人物ノ慥カナルモノナレハ監  
財人ニテ衆債主ヘ対シ金額ノ二割ヲ払ヒ其  
餘ハ年賦ニセント云フトキ衆債主ニテ分散  
人ハ不人物ナリ故ニ半高ヲ取り其半高ハ見  
切ラント云フトモアリ

以上ハ分散人ヨリ品数ヲ申立ルニ監財人ニ  
テ債主ヘ対シ癸言ヲナシテ品ハ何々有之此  
上負債ハ年賦等ニシテ本人ノ立行様ニシテ  
呉レヨト云フトアリ

衆債主ニテ分散人ヨリ申立タルコトク或ハ



慾アリ又ハ強情等ニテ同意スルヲ能ハサル  
アリ故ニ法律上ニテモ必ラズ同意セヨトハ  
ナシタトヘハ債主二十人アラハ十一人同意  
ナレハヨシ借金高ノ四分ノ三丈ケ同意ナレ  
ハヨシ右ノ通り人ノ数ト金ノ高ト揃ハサレ  
ハ宜シカラス

通常ノトナラハ人ノ数衆キ方ヲ取ルナレ  
金ノ高ト人ノ数ト両方ヲ合セテ言ヒタルハ  
注意シタルトナルヘシ

如シ人ノ衆キ丈ケヲ取ラハ少数ヲ借シタル  
モノ丈ケ揃ヒテ多数ヲ借シタルモノ、迷惑  
トナルナリ如シ金高丈ケニテ極メタラハ多  
数ヲ借シタルモノ二人位ニテ決スレハ少数

司法省

ヲ借シタルモノ、迷惑トナル

右佛ニテ立タル法ナレモ今ハ各國ニテモ  
右ニ照準シタル法アリ  
民事ニ於テハ絶テ右等ノ事無之商事ハ格別  
ナリ

或ハ二分トカ半分トカ約束カ付キ一應相済  
ニ自分ノ業ヲ為シテ居ルニ再ヒ不束ニテ身  
代ヲ減スルハ前債主ヘ返スヘキ約束ノ金額  
ヲ減セサル様法律ヲ以テ定メアルナリ  
此者ニテ更ニ分散トナルハ前債主アル上  
更ニ後債主ノ出来タルトキハ如何

ソノ時ニハ分散人ニ不動産アルハ法律ニ  
テ前債主ヘノ引当ト見做シ後債主ニテハ右



へ手ヲ付ルヲ能ハス

如シ不動産ナケレハ約束証印、中ニ保証人ヲ立ツルヲアリ

ソノ分散人初メハ種々ノモノヲ賣リタリト

モ而後ノ商賣ニ付テハ債主ヨリ制限ヲ立ツ

ルヲアリ外國等ハ行キ商スルトキハ何様ノ

約束ノ件ニ定

未々分散ヲナサ、ル前ニタトヘハ外國人ト

約束ヲナシ置キ其約束法ニ適シタルモノニ

テ改ムルヲノ出来サルトキハ即チ約束ノ通

リ取引ヲナサシムルナリ

ソノ後再ヒ分散トナリタルトキハ過失分散

人トナリテ輕罪ヲ受クルナリ

司法省

ソノ外國人ト約シタル為メニ潰レルモ別人

ト約シタル為ナリトモ再ヒ潰レタルトキハ

廉恥面目ニ関スルユヘニ刑人トナリ入獄ヲ

命セラル、ナリタトヒ法律ニ於テ罰スルト

モ「コンコル知」ヲナスハ二度モ三度モ差支

無之

ソノ情ニヨリ罰セサルコトモアリ二度モ三

度モ約束ヲ破ルユヘ氣ヲ付ケル為メニ罰ス

ルナリ

「コンコル知」ハ裁判官ニテ言渡スカ

「コンコル知」ハ未々裁判官へハ持出サス

右ハ約束シタルヲ裁判所へ届ケ出ルカ

其「コンタル」ニテ調フタル上ニテ商法裁判所



へ出スツノトキ裁判所ニ宜シト書テ渡ス  
此場合ニ於テ不都合ノトキハ裁判所ニテ聞  
済ムコトヲ肯ンセサルコトモアリ  
二度メ三度メニ至リテハ裁判所ニテ決シテ  
肯セス  
最初ノ債主ハ不動産モアリ又証人モアルユ  
へ多分ハ損ニナラス  
不動産アレハ最初ノ債主ノ損ニハナラスト  
虽モ万一無之時ハ証人アリ  
既ニ法律上ニテ引當ト見做スユヘ不動産ニ  
於テハ「ゴニ」コル如ク「入ルニ及ハス  
民事ニテハ何ノ故ニ「ゴニ」コル如ク「ヲ為サ、  
ルヤ

司法省

民事ハ食フ為メ計リナリ直チニソノ財産ヲ  
取ルノミ  
高事ナレハ利ヲ得ルノ道アルユヘ此ノ如キ  
「ソナシ」大抵ノ「ハ」押付ル「モアルナリ  
民事ノ分散ニ於テモ時ニヨリ相談スル「モ  
アレ」モ銘々ノ勝手自由ナリ  
既ニ裁判所ニテモ聞済ミ約束ノ調フタル上  
ニソノ年賦第一ノ期ニ至リ約ニ違ヒ拂ハサ  
レハソノ廉ニテ右ハ消滅スルナリ  
万「ゴニ」コル如ク「出来タル上ニ詐偽分散  
ナル「ノ」發覺シタルトキハソノ一事ヲ以テ  
取消トナル

元ヨリ詐偽ナル「ヲ」知リタルトキハ「ゴニ」コ



ル知リニハナラズ故ニ「コンコル知リ」ヨナシ  
タル日ヨリ消滅スルナリ  
分散言渡ヨリ「コンコル知リ」ニ至ルマテノ間  
ニ訴ヘノ起ル「アレハソ」ノ時ハ分散人ヲ相  
手取ル「能ハス」監財人ヲ相手取ルナリ  
万一「コンコル知リ」ノ調ノハサルトキ又調ヒ  
タリトモ詐偽等ノ知レテ裁判所ニテ肯シゼ  
サルトキハ第二ノ事ニ移ルナリ  
今迄ノ間ハ別ニ名目ナシ之レヨリ後ノ更ハ  
「エタテユニラント云フ人」ノ聚マリタルト云  
フ義ナリ以下ハ分配會計ノ「至ルナリ」ソ  
ノ財産分配出入等ヲ仕分ケスルナリ  
ソノ間ニハ監財人居リテ受取渡シヲナス

司法省

一箇肝要ナル「云ハ」ニ  
分散人ノ商物澤山アルニ一時ニ賣レハ下直  
ナリ故ニ監財人ニテ此品ヲ賣リ切ルマテハ  
分散人ニアラサル分ニナシ度ト願フトキ之  
レヲ許ス「アリソ」ノ時ハ衆債主打寄りテ商  
ヒスルモノト見做スナリ  
タトヘハ「一ツ」ノ製造場アラニ「沢山」ノ品物  
ヲ一時ニ賣レハ下直ナリソノ時分散人ニテ  
ハ早ク片舟ケ度ト思フナレト債主ニテ監財  
人ノ言ヲ聞キ尤ト思フ「ハ」相談ヲナシテ関  
店ニテ「ワ」口々ト賣ル「モ」アリ  
商賣ノ続クト續カサルトノ見定メハ甚々難  
シ故ニ衆債主ニテ相談ヲナスナリ



ソノ相談ノ時ハ人ノ数モ金ノ高モ四分ノ三  
ニ至ラサル可カラズ最初ヨリ人ノ数ヲ  
此相談ニ至リテハ初メヨリ一層重クナルユ  
ヘナリ  
此相談ハ不意ノコナリ元ト債主ノ集會ハ品  
ヲ取調ヘ配分セントノ為メナリ然ルニソノ  
時ニソロ々々賣ルノ相談トナルユヘナリ  
右等ノ場合ニテ当人ハ全ク関セスヤ又ハ監  
財人ニテ当人ニ代リテ申立ルヤ  
第ニノ事ハ全ク監財人ニテナスナリ第一ノ  
事ノ時ハ当人モ頭ヲ出スナリ此監財人ハ則  
チ商人ニテ当人ヨリハ立派ニ仕分ノ出来ル  
モノナリ

司法省

如シ相談調フテ引続ク高ヒノ時ハ裁判所ニ  
テモ関スレバ弥分散トナルトキハ裁判所ニ  
テハ一切関セス  
裁判所ニテハ相談ノ出来タル上ニテ聞済ム  
ト聞済マサルニアリ  
更ニ餘論ヲ陳ヘントス未タ知ラス緊要ナリ  
ヤ否  
一更ニ注意セサルヘカラサルコトアリタトヘ  
ハ十五年專賣免許ヲ得タルモノソノ年限中  
ニ分散人トナリタルトキソノ十五年間專賣  
ノ權ヲ得セシムヘキヤ又ハ製造品ノ庫中ニ  
アル物ケヲ賣テシムヘキヤ右ハ十五年間ハ  
專賣ヲナスヲ得  
ル故ニ引続製  
造苦シカラズ



タトヘハ日本ニテ桑ヲ植ヘ製絲ヲナサント  
スルニソノ業ノ半ハニ至リ潰レタルニ債主  
ニテソノ資本トナルヘキ諸品アルニ於テハ  
後來ソノ業モツ、キ金モ取レルト見込ニ債  
主ニテ承知シテ業ヲナサシムルニ數年ノ後  
負債ヲ消却スルトキハ終ニ分散セシテ止ム  
トアリ此項第一ノ支ツキニコレカ  
監財人ニテ支配スル中ニソノ監財人モ潰レ  
テ再ヒ分散スルトキハ監財人ニテ分散トナ  
ルナリ

司法省

サシム

初相談ノ時四分ノ三ハ承知スル人ニテソノ  
餘ノ不承知ノ人ハ再度分散ノ損ハ受ケス四  
分ノ三ノ承知セシ人ニ平均ヲ掛ケテ損ヲ十  
基ツキテ云フ

專賣中他人ニテ右ヨリ一層上ヘノ發明ヲナ  
ストキハ此專賣ハ衰微シテ賣レサルアリ  
專賣中ソノ人ニアラサレハ出来サルモノア  
ルベシ右等ノ人ノ分散トナリタルトキハ如  
何スルヤ  
ソノ時ハ一箇ノ職人トナリ又ハ製造所ノ雇  
人トナル

若シ此後商法ノ續カサルト見留メタルトキ  
ハ製シ出シタル品ヲ糶賣シ俛セテ專賣免許  
ヲモ受クルトアリ



第三ノ変

第三ニ於テ分配ヲ済マシ残り高何程ト書付  
ケヲ作り夫々債主へ渡シ済ミトナル此所ニ  
テ監財人ノ職ハ終ル

第三ノ変ニ於テハ瑣変ナレモ之レヲ一ツノ  
事トナシ三ツノ事ニ分カタサルヲ得ス何ト  
ナレハ分散人ニテ身代ヲ取り直シタル時ハ  
債主銘々自カラ行テ取ルナリ故ニ残り高ノ  
書付ハ肝要ナリ之ケレ終テ早ル

ソノ後銘々ニテ取ル節ニ至リテハ取り勝子  
ナリ故ニ中ニハ取ルトノ出来サル債主モア  
リ  
分散シテ一品モナク監財人ヲ立ツルトモ出

司法省

来サルトアリソノ時ハ銘々ヨリ借シタル金  
ト見切ルナリソノ名ヲ入額ノ不充分ノ結局  
コロチール、アール、アンシヒサニ、テアクチー  
ト云フナリ

分散人富家ヲ相統スルトキハ債主ニテ銘々  
行テ取ル

分散人ノ跡ハ相統スルモノ絶テアルトナシ  
若シ相續スレハ債主ニテッノ相續人へ係ル  
ナリ



司法省



第拾壹号

诉讼法會議筆記

七年五月十三日

司法部



七年五月三十日

今日ハ呼出状ノ今ハ説キ尽サントスソノ後  
ハ裁判言渡ト欠席裁判ノトヲ説キ次ヒテ控  
訴ノ事ヲ説カントス

訴訟法中ニ首タル訴訟ト添タル訴訟トアリ  
先ツ首タル分ヲ説キ次イテ添タル訴訟ヲ説  
カントス 勸解ノト 呼出ノト 裁判言渡  
ノト 欠席裁判ノト 故障ヲ申立ルト 別  
人ヨリ故障ヲ申立ルト 控訴ノト 大審院  
ヘ控訴ノト ト順次ニ説カントス

過日家資分散ノトニ付テ三ツノ事アルトヲ  
説キタリソノゴコンコル知レニナルノ間ト云  
フトハ此法律書ニ無之先ツ之レヲ説カン

司法省

訴訟法ハ一千八百六年ニ編集シ一千八百七  
年ヨリ施行セシモノナリ

商法ハ一千八百八年ニ編成セシモノナリ依  
テ此コンコル知レハ訴訟法ニナキナリ

第六十九條 第七ハ六ヶ敷更無之

第七 家資分散人ノ連結セシ債主ヲ呼出ス時  
ハ其管理者又ハ其住所ニ呼出状ヲ送達スベシ  
商法ニハコンコル知レニナル間ノ手續有之  
商法第四百九十二條ヲ見合ベシ

連結セストモ即チ監財人ヲ呼出スヤ  
債主連結セスシテ只一人ナルトハ殆ントナ  
キトナリ

第八 佛蘭西國內ニ分明ナル住所アラサル者



ヲ呼出ス時ハ其寄居スル場所ニ呼出状ヲ送達  
ス可シ若シ其寄居スル場所ノ知レサル時ハ訴  
訟ヲ審判ス可キ裁判所ノ訟庭ノ最大ノ門扉ニ  
呼出状ノ副本一通ヲ貼附シ又一通ヲ檢事ニ送  
達シ檢事其正本ニ檢印ヲナス可シ

此一項中ニ甚難事アリ原告人ニテ何レノ裁  
判所ヘ訴ヘテ可然ヤヲ見出スト能ハス  
物件ニ付テノ訴訟ナレハソノ所在ノ地ノ裁  
判所ヘ訴フルノ原則ナルユヘ面倒ナルトハ  
無之

佛國ニ於テモ住所住居ノ知レサルニ付キ使  
吏ニテ間違アルト時ニ有之原告人ノ申立ニ  
ヨリ直チニ執行フユヘナリ

司法省

ソノ住所住居ヲ穿サクヌレハ知ルベキモノ  
ヲモ粗忽ニ執行ツテ又席裁判トナリソノ後  
被告人ノ住所住居ノ知ルベキ確証アルトキ  
ハ使吏ハ相当ノ罰ヲ受ケソノ裁判入費ハ原  
告人ヨリ償却ス

タトヘハ東京ニ住スルモノアリ東京元ヨリ  
廣シ容易ニ尋子得ヘキニアラスソノ時ハ東  
京府並ニ各區ノ役所等ニ依頼シテ之ヲ尋  
ネ弥知レサルト定マリタル上ニテ執行ス  
タトヘハ緋商麵包店又ハ人足等夫々ソノ同  
業ノモノハ勿論穿索スベシ

此穿索ハ使吏並ニ原告人ニテナス  
タトヘハ旅居ニアルモノ又ハ一時下宿等ノ



モノト契約ヲナスモノハソノ旅居並ニ下宿  
ノ主人ニ訪ヒ行ク先キノ知レサルトキハソ  
ノマ、執行ヲテ苦シカラス右ハ東京ニ住居  
ヲ定メサルモノナレハナリ

タトヘハ辻輕業師又ハ田舎芝居等ノモノ一  
時東京ニ出テ興行シタルトキ等ハ直チニ執  
行苦シカラズ尤モ一応興行セシ隣家ヲ尋又  
ルナリ右等ハ元ヨリ東京ニ住居ノ定マラサ  
ルモノナレハナリ

佛國ニ於テ住所ノ定マラサル婦人アリ借金  
ノタマリタレハ直チニ他へ轉スソノ宿シタ  
ル内ヲ尋テ得サレハソノマ、執行スルナ  
リ但有名美人ノ如キハ格別ニシテ尋テ得ル

同法省

トモアルト虽モ尋テ得ルト甚々少シ  
右等ニ於テモ粗忽ニナスヘカラサルモノナ  
リ故ニ法律ニ於テ保護シテ欠席裁判トナラ  
サル様ニ注意スルナリ

前文ノ如キ場合ニ於テ呼出シヲ知テサル為  
メニ欠席裁判トナリタリトモソノ執行ノ以  
前ニ知得スルトキハ故障ヲ申立ツルトテ得  
ルナリ

タトヒ欠席裁判ノ言渡ヲナストモ物品ナケ  
レハ執行フテ能ハスト虽モ万一何レヨリカ  
物品ヲ尋テ出ストキハ執行フテ得ルナリ  
ソノ執行マテニ被告人ニテ欠席裁判トナリ  
タルトテ知得スルトキハ即チ故障ヲ申立ル



トヲ得ル

到底現場ツノ人ヲ見出サ、ルハ執行フヲ得ス

被告人ニ於テハソノ執行ヲナス迄ニ故障ヲ申立ツルナリ

ソノ訴訟入費ハ執行マテハ出サ、ルナリ  
右ノ場合ニ於テ被告人ニテ他人へ金ヲ貸シタルモノアルトキハ原告人ヨリソノ借り主へ謝ハリソノ金ヲ差押エルトアリ

欠席裁判トナリタルトキ原告人ニテソノ人ノ貸シ金アルトキ知リタルトキハ法律上ニ於テ取押ノ手續ヲナシタル上八日間門扉ニ貼マツノ後ニハ原告人ニテソノ金ヲ取ルナリ

司法省

右ノ執行済ミタル後被告人ニテ何レノ所ニ住居スルト云フノ訟ヲ立テ全ク原告人ノ粗漏且故意ヨリ出テタルトキハソノ入費ハ使吏ニテ出スヤ又ハ原告人ニテ出スヤソノ時ハ被告人ニテ原告人ニ掛ルナリソノ手續キハ一席ノ咄ニ尽スト能ハス  
ソノ時ニ於テ原告人ノ偽計ヨリ成リ使吏モ粗忽ニテ遂ニ前文ノ場ニ至リ故障ノ日限モ過キ上告ノ日限モ済ミタルトキハ別ニ非常ノ道ヲ以テ故障ヲ申立ルトアリ之レヲオワシエキスタラサルガ子ノト云フ  
欠席裁判トナリタル後被告人出テソノ宿所



等容易ニ尋子得ヘキヲ原告人並ニ使吏探索  
セサルノ証アルトキハ原告人ニ掛リ償金ヲ  
求ムルトモアリ候シ此更甚稀レナリ

以下本條ニ基ツキ何レノ裁判所ヘ出ツベキ  
ヤヲ説ク

人權ノ一ニ付テハ原告人ノ住所ノ裁判所ヘ  
出ツヘキハ原則ナリト虽モソノ人ノ住所住  
居ノ知レサルニ於テハ何レノ裁判所何レノ  
檢査ヘ出スヘキヤ

日本人ニテ佛國ヘ行キ佛國ニテ契約ヲナシ  
ソノ後日本人ハ帰朝セシトキハ佛國ニテ裁  
判ヲナスノ權アリト虽モ三百餘ヶ所ノ下等  
裁判所アリ何レノ裁判所ニテ可ナルヤ

### 司法省

一説ニハ巴里ニテ契約ヲナシタルトキハ巴  
里ノ裁判所ニテ可然ト云フ説アリ然レトモ  
原告被告人トモ旅行中ニ契約シタルトキハ  
再ヒソノ地ヘ行カサルヲ得ス難澁ナリ又不  
造ナリ

時ニヨリ汽車中ニテノ契約等ハ何トスベキ  
ヤ一二語中既ニ二三里モ行キ過クルナリ  
契約ヲ為シタル地トスルトキハ原告被告ト  
モソノ地ニ居ラス且原告人ハ入費ヲ掛ケソ  
ノ地ヘ行カサルヲ得ス

又一説ニハ被告人ノ住所ノ知レサルトキハ  
原告人ノ住所ノ裁判ト云フ説アリ  
此説可ナリト又被告人ノ住所ノ裁判所ハ原



則ナレモ何レニシテモ一方ニテハ入費ヲ掛  
ケサルヲ得サルモノナルニテ双方ニテ入費  
ヲ掛ルヨリハ寧ロ一方ニ掛ケル方宜シトス  
法理ヨリ言ヘハ後説可ナリ実支ヨリ言ヘハ  
何レニテモ可ナリ何トナレハ契約ハ必ラス  
原告人ノ住所へ来リテ為スモノナリ故ニ二  
説トモニ行ハレテ差支ナシ  
一説ニ確定セス実況ニヨリ二説ノ内便利ナ  
ル方ヲ用ユルトシテハ如何  
二説ノ内何レニテモ原告人ノ擇ミニ依テ為  
スト定ムルトキハ可ナリ  
現地ハ定マリナシ裁判官ノ見込ニ任カス  
外ニ數説アリ

司法省

万一甲<sup>ウ</sup>井<sup>ン</sup>ナ<sup>ニ</sup>アリ巴里へ唇翰ヲ以テ金  
ヲ借リタルトキハソノ契約ハ何レノ地ニテ  
成リタルヤ  
右ハ貸シタル地ニテ出来タルニアラス両方  
地ニテ出来タルモノナリ何トナレハ契約ハ  
双方承諾シテ成ルモノナレハナリ  
抑金銀等ノ貸借ハ承諾ノミニテハ契約ノ成  
ルモノニテラス貸主ヨリ金ヲ借主へ送達セ  
カレハ契約ニハナラサルナリ  
又トヘハ佛人ト外國人ト結ヒタル契約ニ付  
テノ訴訟ハ巴里ニテ裁判ヲナス<sup>一</sup>ハ民条十  
四条ニ正条アリ

故ニ前文ノ場合ニ於テウ井<sup>ン</sup>ナ<sup>ニ</sup>ノ裁判所へ



出ツルモノニアラス

故ニ原告人ノ住所ノ裁判所ト定マルナリ

若シ日本人佛ニアリ佛人ニ金ヲ借シタル

ニ付テノ訴訟ハ佛ニアル内ハソノ住居ノ裁

判所ニ訴フルナリソノ日本人既ニ帰朝セシ

上ニ訴フルトキハ日本ノ法律改正ナリタル

上ハ日本ノ裁判所へ訴フヘシ現今法律ニ

第九 佛蘭西本國外ノ佛蘭西領地ニ居住スル

者又ハ外國ニ居住スル者ヲ呼出ス時ハ訴訟ヲ

審判スル裁判所ノ檢事ニ呼出状ヲ送達シソノ

官吏其正本ニ檢印ヲ為シテ其副本ヲ本國外ノ

領地ニ居住スル者ニ付テハ海軍支務宰相ニ送

達シ外國ニ居住スル者ニ付テハ外國事務宰相

司法省

ニ口送達ス可シ

佛ノ領地ナレバ大陸外ニアルノ佛領地ヲ云

即チアル サイゴン等之レナリ

此項ノ如キ場合ニ於テハ檢事ニ呼出状ヲ送

達ス

一葉ハ檢事ノ手ニアリ一葉ハ兩宰相ノ内ヨ

リ被告人ニ送達ス

物權ナレバ佛國內ニテ裁判スルコトモアル

ベシ

若シ人權ナレハソノ人ノ住所ノ裁判所へ訴

ヘサルヘカラス

コ、ニ難件ア「カイゴン」ニ居ル人ナラハ海軍

宰相へ送ルニ及ハス即チ「カイゴン」へ行キ直